

# 事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県立御殿場特別支援学校

静岡県立御殿場特別支援学校 小山分校

## 目 次

□	事 務 事 業 の 概 要	1
	事務執行の根拠法令調	27
	学校施設の概要	28
	在籍生徒調	31
	入学志願者及び入学者数調	33
	卒業生の動向調	35
	生徒の状況	36
	特別支援学校における生産物売払調	39
□	預 金 調	40
	材料品受払調	40
□	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	41
□	委託料に関する調	42
□	負担金支出調	45
□	建築工事調	46
□	公有財産調	48
□	借地借家等調	49
□	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	50
□	行政財産貸付・使用許可調	51
□	主要備品調	52
□	職員調	53
	職員の年齢調	57
	健康管理	58

□□□□□□

## 事務事業の概要

### 1 概況

#### (1) 学校の沿革

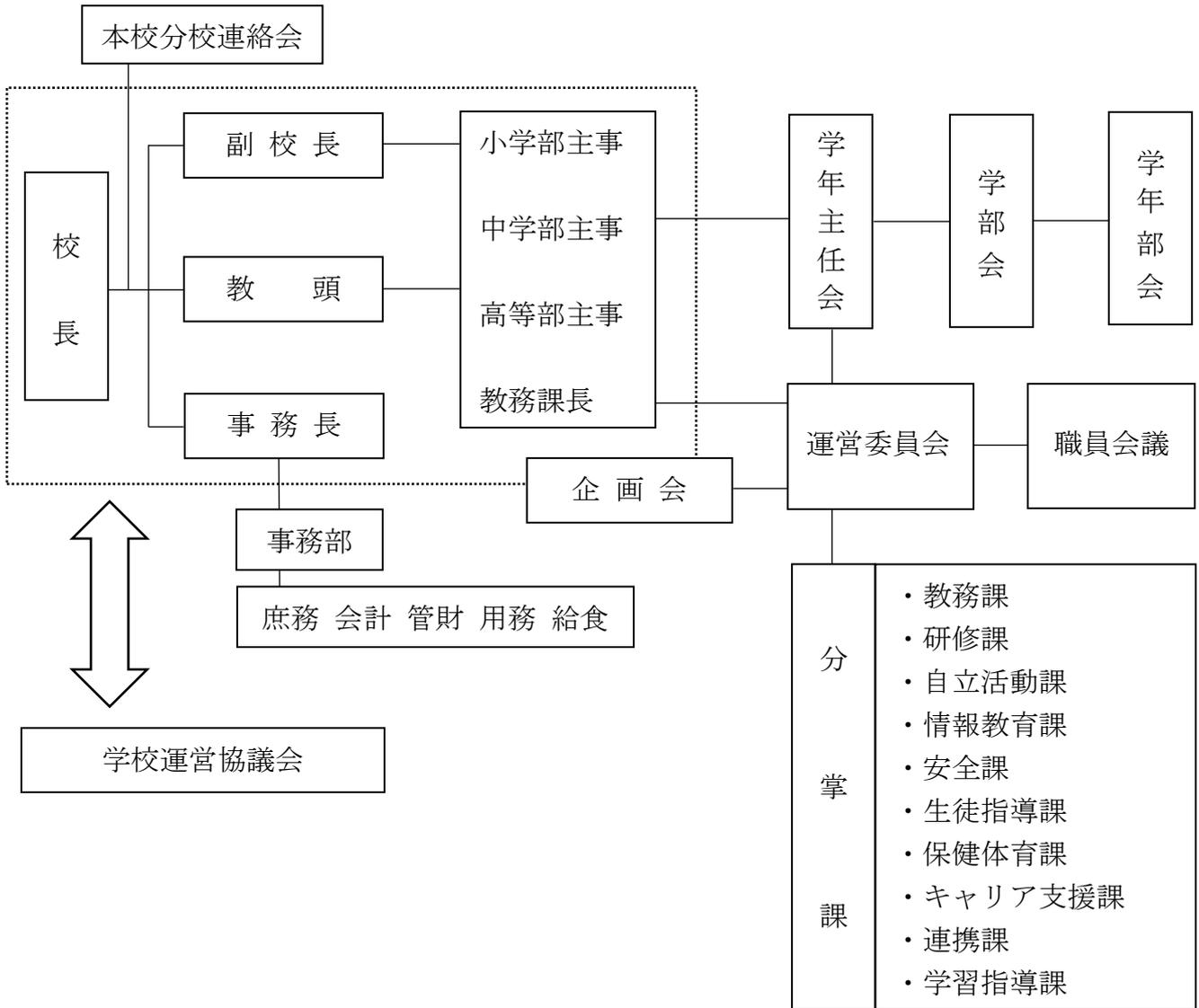
〈本校〉

昭和32年 4月	御殿場市立高根小学校に精神薄弱児（知的障害児）教育のため特殊学級（養護学級）1学級設置
昭和35年 4月	御殿場市立御殿場小学校、同御殿場中学校に精神薄弱特殊学級1学級を設置
昭和35年 10月	秩父宮妃殿下の御来臨をとおぎ、荒木文相の御殿場市立御殿場学園の命名により開園式を挙行 御殿場市萩原318番地の1に開園
昭和37年 4月	高根小学校特殊学級を統合
昭和38年 4月	公立養護学校に認可 校名「御殿場市立養護学校」
昭和38年 11月	秩父宮妃殿下の御来臨をとおぎ、開校式を挙行
昭和42年 9月	御殿場市保土沢924番地へ新校舎新築移転（木造平屋建て3棟）
平成4年 4月	高等部開設
平成4年 10月	校区である2市1町（御殿場市 裾野市 小山町）の関係者が県教育委員会へ御殿場市立養護学校の改築と県立移管に関する陳情書を提出
平成6年 5月	県教育委員会に準備委員会が設置される
平成7年 1月	2市1町の教育委員会が県立養護学校の開設に関する要望書を提出
平成11年 10月	静岡県立御殿場養護学校設置条例議決
平成11年 12月	御殿場市立養護学校の廃止条例（御殿場市）議決
平成12年 3月	御殿場市立養護学校の廃止認可 県立移管に伴い新校舎等施設設備完成
平成12年 3月22日	御殿場市立養護学校閉校式典挙行
平成12年 3月31日	県立移管により御殿場市立養護学校閉校
平成12年 4月1日	静岡県立御殿場養護学校開校
平成12年 4月10日	開校式、小学部、中学部、高等部入学式挙行
平成14年 4月1日	学校週5日制開始される
平成15年 10月27日	三笠宮信子妃殿下 御視察
平成16年 6月12日	県立移管5周年記念セレモニー（運動会同日開催）
平成16年 7月15日	河村文部科学大臣 来校
平成20年 4月1日	静岡県立御殿場特別支援学校に校名変更
平成21年 11月28日	静岡県立御殿場特別支援学校開校10周年記念式典
平成22年 12月20日	中学部棟校舎完成
令和元年 11月30日	静岡県立御殿場特別支援学校開校20周年記念式典

〈小山分校〉

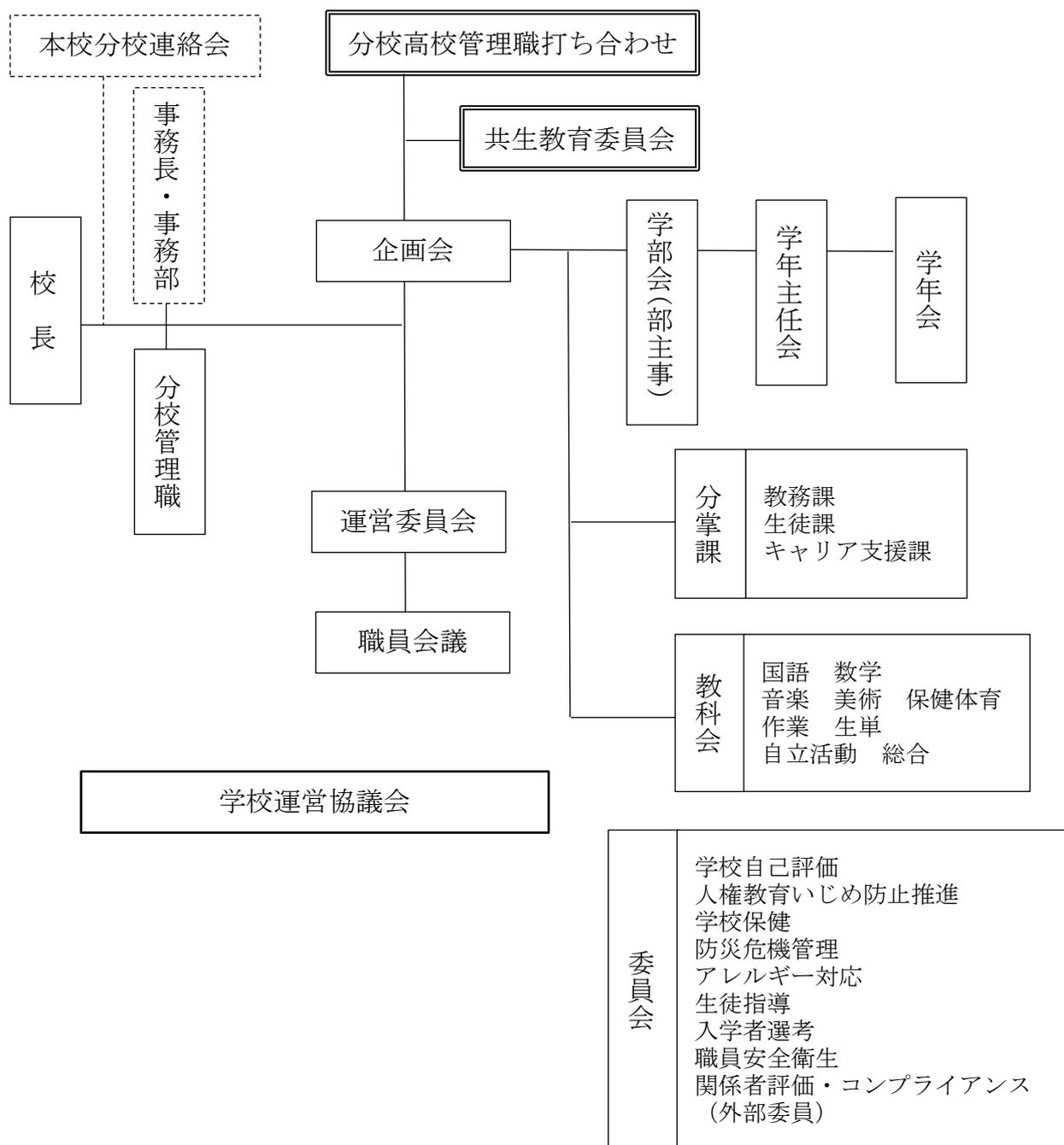
令和5年 4月1日	高等部分校設置準備委員長、委員7人発令
令和6年 4月1日	小山分校開校
令和6年 4月9日	小山分校開校式及び入学式挙行

(2) 組織図  
〈本校〉



各種委員会		
<p><u>企画会内で開催</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価委員会</li> <li>・人権尊重教育いじめ防止推進委員会</li> <li>・校内就学支援委員会</li> <li>・情報管理委員会（情報セキュリティ推進委員会）</li> <li>・職員交通安全委員会</li> <li>・学校施設開放委員会</li> <li>・教科書採択検討委員会</li> </ul>	<p><u>分掌等が開催</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会（教育課程編成委員会）</li> <li>・学校保健委員会</li> <li>・アレルギー対応委員会</li> <li>・危機管理委員会</li> <li>・初任者研修委員会</li> <li>・学校職員安全衛生委員会</li> <li>・研修推進委員会</li> <li>・医療的ケア検討委員会</li> <li>・給食委員会</li> </ul>	<p><u>学校運営協議会内で開催</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内コンプライアンス委員会</li> <li>・いじめ防止対策拡大会議</li> </ul> <p><u>随時開催</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科委員会</li> <li>・交流教育推進委員会</li> <li>・高等部入学者選考委員会</li> <li>・校務DX推進委員会</li> </ul>

〈小山分校〉



## 2 目指す学校像

### 〈本校〉

#### (1) 教育理念

個々の特性や発達段階に応じて、それぞれの可能性を最大限に広げるとともに、社会参加や自立に必要な知識・技能・態度の育成を図り、一人一人の自己実現を支援する。

#### (2) 教育目標及び具現化の柱

##### 【令和6年度】

「自分らしく のびやかに たくましく」

##### (知) 確かな学力：自分らしく学ぶ姿

多様な人・もの・ことと関わりあいながら興味関心や思考の幅を広げたり、対象への理解を深めたり、考えを表現したりして主体的に学ぶ姿

##### (徳) 豊かな心：のびやかな姿

変化に対応したり多様性を受け入れたりしながら、誰とでも、どんなところでも自分の力を発揮し、進んで課題を解決しようとする、柔軟で力強い姿

##### (体) 健やかな体：未来に向かってたくましく生活する姿

どんな状況や環境、どんな社会や時代の変化においても、生活習慣を整えたり、心を安定させたり、体の機能を保持・増進したりしながら、たくましく生活する姿

ア 授業力 自己実現に向け、自分らしく学ぶ、12年間のつながりある指導が充実する学校

イ 安心力 人、もの、ことに対する想像力が働き、皆が安心して過ごせる学校

ウ 共創力 コミュニティースクールとして、家庭・地域とともに、発展する学校

エ チーム力 教職員のチーム力で、課題に向かって前進する働きがいのある学校

##### 【令和7年度】

「自分らしく のびやかに たくましく」

##### (知) 自分らしく学ぶ姿

##### (徳) のびやかで豊かな姿

##### (体) たくましく生きる姿

ア 【守る】命を守り、人権を尊重する、安全・安心に過ごせる学校

イ 【育む】主体的に、自分らしく学び合う授業が充実する学校

ウ 【つなぐ】家庭・地域とともに、自立・自律に必要なキャリア発達をつないでいく学校

### 〈小山分校〉

#### (1) 教育理念

個々の特性や発達段階に応じて、それぞれの可能性を最大限に広げるとともに、社会参加や自立に必要な知識・技能・態度の育成を図り、一人一人の自己実現を支援する。

#### (2) 教育目標及び具現化の柱

##### 【令和6年度】

「自分らしく のびやかに たくましく」

ア 授業力 自己実現に向け、自分らしく学ぶ、12年間のつながりある指導が充実する学校

イ 安心力 人、もの、ことに対する想像力が働き、皆が安心して過ごせる学校

ウ 共創力 コミュニティースクールとして、家庭・地域とともに、発展する学校

エ チーム力 教職員のチーム力で、課題に向かって前進する働きがいのある学校

【令和7年度】

「自分らしく のびやかに たくましく」

合言葉 「いっしょけんめいに なにかができる人」

【知】自分らしく学ぶ姿 【徳】のびやかで豊かな姿 【体】たくましく生きる姿

目標具現化の柱

ア 【守る】 命を守り、人権を尊重する、安全・安心に過ごせる学校

イ 【育む】 主体的に、自分らしく学び合う授業が充実する学校

ウ 【つなぐ】 家庭・地域とともに、自立・自律に必要なキャリア発達をつないでいく学校

### 3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

〈本校〉

#### (1) 6年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	夢と希望を育む 指導と支援が12 年間つながるシ ステムづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者はキャリアパスポートを見たり読んだりして、児童生徒の頑張りの様子や好きなこと得意なことがよく分かると答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価ができた振り返りの賞賛(シールなど)が励みになったりする児童生徒は、自分たちで立てた目標を意識して生活できた。</li> <li>児童生徒の成長の過程や成果を面談やキャリアパスポート連絡等伝えたことで理解を深めることができた。</li> <li>小学部低学年の児童は自分で振り返り自己実現に向けて生活することは難しい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で目標を立てることができる児童生徒は、目標を意識した生活を送ることができている。評価をすることで次への意欲付けにもつながっている。</li> <li>障害の重い児童生徒については教師主導になる場面が多い。</li> <li>小学部低学年の児童は、自分で振り返り自己実現に向けて生活することはまだ難しい。</li> </ul>
	自分らしく学ぶ 知的障害の児童 生徒の思考に沿 った授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒は学校が楽しい、授業が分かり、やる気が出ると答える又は、そのようなあられ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12年間のつながりの研修で関わっているため意識した。</li> <li>学校が大好きで楽しく通えている。</li> <li>個人に合った取り</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き生活年齢の12年間のつながりと個人の12年間のつながりを意識した授業づくりを実践していく中で、児童生徒が分かる、やる気が出るといった言葉や表情を引き出し</li> </ul>

		がみられる。	組みをした。		ていく。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は、検索ツールとしてだけでなく、実践の記録ツールや自分の考えの発信ツールとして ICT を使っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT を児童自身が使う機会を増やすよう授業の工夫をした。</li> <li>・ タブレットを使用するときは、余暇が多く、授業の中で個々にタブレットを使用することができていない。</li> <li>・ 言葉のない児童生徒にも ICT を使用して司会を進めるなど活用している。</li> <li>・ 検索ツールとしては使用することがことはあったが、記録や自分の考えの発信ツールとしては活用できていなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器を使えるよう授業を改善することができた。</li> <li>・ ICT 機器を使用して表出が少ない児童生徒が活躍する場面を作った。</li> <li>・ 検索ツールとしては使用することがことはあったが、記録や自分の考えの発信ツールとしては活用できていなかった。</li> <li>・ 余暇利用のためのタブレット利用にとどまっている。</li> </ul>
イ	社会の変化に対応し、人、もの、ことに対する想像力を育てる教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒は防災訓練のたびに災害から自分の身を守る新しい知識や技術が向上している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学部のときからの積み重ねがあり、地震や火災など、災害に応じた避難の仕方が身につけている生徒が多い。</li> <li>・ 繰り返し行ってきた訓練に新しい取り組みを加えて行い命を守る知識や技術を身に付けることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓練を積み重ね、繰り返すことで災害に応じた避難ができた。</li> <li>・ 御殿場市役所危機管理課、消防、警察と連携をすることで、教師が児童生徒、自らの安全を守る知識が増えた。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は、自他を大切に思う発信ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部ではクラスを越えた生徒同士の関りや手助けをする姿が見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスだけでなく、学年の生徒同士で話し合いをすることで生徒に人権への理解が深まった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は、性や食に関心を持ち、自分を大切にしている生活ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの全体計画を基本に保健指導、性教育、食に関する指導ができた。</li> <li>・給食でいろいろなメニューがあり、食べる意欲が高まった。</li> <li>・食べられるものが増えてきている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画をもとに保健や性教育の指導ができた。</li> <li>・給食でお茶ウイークやふるさと給食の実施、お茶やダシに関する講座を通して児童生徒が食に興味関心をもつことができた。</li> </ul>
ウ	柔軟でたくましい心と体を育む 体育と情操教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は、体育・音楽・美術/図画工作の授業や学校行事で、自分や友達の良さを見つけたり仲間と取り組む楽しさを味わったりして発信しあったり共に影響しあったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育や図工、美術では目的や活動内容、手立てを練って授業を行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御特祭の発表や図工美術の展示等を見合うことで自他の良さを認め合うことができた。</li> <li>・自衛隊コンサートや小山高校の吹奏楽を見学することで児童生徒の感性をはぐくむことができた。</li> </ul>

ウ	地域と目的を共有する開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・地域・家庭は防災対策について、情報を共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理課に訓練を見学していただいたり消防、警察と連携したりして訓練たことで情報の共有ができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御殿場市危機管理課、消防警察など地域の人材を活用して訓練ができた。</li> <li>・校内では、避難訓練等に対応しているが、具体的に地域や家庭とどんな情報共有をしているか見えにくい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の幼保小中高等学校の児童生徒は自己理解や就学及び進路選択に有益な情報を得ることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小中の教員・支援員・保護者への研修を実施し情報を発信した。</li> <li>・学校見学会や高等部見学会を開催し、就学や進路選択について考える機会を提供した。</li> <li>・御特便り、コーディネーターだよりを発行し保護者地域に情報発信した。</li> <li>・HPの更新があまりされていないかった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の支援会議では、困り感のある児童について一緒に考え、支援方法について提案した。</li> <li>・学校見学など多くの方に学校を知ってもらう機会を作った。</li> <li>・HPを更新して情報を積極的に伝えることができなかった。</li> </ul>
エ	<b>働きやすい職場環境で、やりがいを感じ、ワークエンゲージメントの向上を実現するチーム作り</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は、自分の事務研修（空き）時間を活用し、帰宅時刻を自分で決めて、気持ちよく働くことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や人員によって業務の量に隔りがある。</li> <li>・事務研修時間も取れず、校外学習や行事も続いて負担感が多かった。</li> <li>・職員室が狭く業務を進めるのに困難な時がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や人員によって業務の量に隔りがある。</li> <li>・職員室の机、椅子の位置で机上でのパソコン業務が難しいと感じる。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は、各自研修テーマを持ち、主体的に研修している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年研修などがあると各自の研修テーマを持っていた。それ以外の教師は学部の研修が中心となっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年研修対象の教師は、各自テーマをもって研修に取り組むことができた。</li> <li>・経年研修以外の教師は所属する学部の主催の研修に参加した。</li> </ul>
--	--	--	---	---	--

(2) 7年度の取組目標・達成方法・成果目標（ゴシック体は重点目標）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	<b>自分と人を大切に 学校づくり</b>	・挨拶の励行と自他を大切に する支援の充実	・安心して学校生活を送ることが できたと答える児童生徒	生徒指導課
		・ポジティブタイム(不祥事根絶 研修)の活用	・児童生徒の模範となり、自他を大切に し、やりがいを感じる教職員	各学部 管理職
	命を守る、 危機管理と 安全教育の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な安全点検と環境整備 による危機管理意識の向上</li> <li>・緊急時の対応や防犯防災訓練 を活かし、危機管理マニュアルの 活用と見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考えて、児童生徒の安全を守る 行動ができる教職員</li> <li>・自らを守る気づきと行動ができる 児童生徒</li> </ul>	安全課 保健体育課 生徒指導課 情報教育課 事務部
		・健康で丈夫な心身をつくる体 育活動、食育、保健指導	・自分の心身の健康を守るために、努力 する児童生徒	保健体育課
イ	<b>主体的に自 分らしく学 び合う授業 づくり</b>	・個々の実態把握とニーズに応 じた自立活動の推進	・児童生徒の力を活かし、ニーズに応じ た授業づくりができる教職員	自立活動課 研修課
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画を活用し、キャリ ア発達に適切な単元設定の実施 と授業の充実</li> <li>・ICT 活用スキル向上と対話と深 い学びのための授業実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が楽しい、授業が分かる、夢中 で取り組む、主体的に学ぶ児童生徒</li> <li>・児童生徒の学びを見取り適切な目標 設定と評価ができる教職員</li> <li>・児童生徒が ICT 機器を活用して自 分の思考を広げる授業づくりが できる教職員</li> </ul>	各学部 教務課 研修課 情報教育課
	豊かな心と 表現力を高 める教育の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術、表現活動の推進</li> <li>・読書や対話する時間に親しむ 活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が表現する楽しさを味わ う支援ができる教職員</li> <li>・自らの思いを伝え、表現する喜 びや楽しさを感じる児童生徒</li> </ul>	学習指導課 連携課

	学び合い、高め合うチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OJT やグループワーク等を活用した対話型研修の実施</li> <li>・目的を共有し、チームで創るプロジェクト型実践の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の専門性向上に自ら取り組みることができる教職員</li> <li>・主体的に学び合いの機会を作り、学校運営に参画し、チームとして協働する教職員</li> </ul>	研修課 自立活動課 キャリア支援課
ウ	<b>キャリア発達をつなぐ学びと支援の充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画に基づくキャリア教育の充実</li> <li>・児童生徒の願いと将来を見据えた進路指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の願いを保護者や関係機関と連携して育む支援ができる教職員</li> <li>・学部間のつながりを意識した適切な授業づくりと進路指導ができる教職員</li> </ul>	教務課 キャリア支援課 各学部 連携課
	地域での学びと豊かな生活をつなぐ支援と発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と共に創る学校づくりの推進 (交流活動、協働活動等)</li> <li>・芸術、スポーツ、作品展示、外部活動等、表現活動への参加</li> <li>・お便りや HP 等での広報・情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター的役割を活用し、地域との連携や貢献できる教職員、保護者</li> <li>・児童生徒が地域での学びに参加し、貢献できたと感じる教職員、保護者</li> </ul>	連携課 学習指導課 各学部 学校運営協議会

〈小山分校〉

(1) 6年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	夢と希望を育む指導と支援が12年間つながるシステムづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者はキャリアパスポートを見たり読んだりして、児童生徒の頑張りの様子や好きなこと得意なことがよくわかると答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談時に保護者が確認したり、生徒が学習の振り返りをしたりしているが成果目標には達成していない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとに始めと終わりに目標や成果について生徒と面談をして話したり確認したりできたことがよかった。</li> <li>・キャリアパスポートの内容を各学習の振り返りをして作成していく。</li> </ul>
	<b>自分らしく学ぶ知的障害の児童生徒の思考に沿った授業づくり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は学校が楽しい、授業が分かり、やる気が出ると答える又は、そのようなあらわれがみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型の学習、地域、高校との学習で生徒の意欲的な姿が見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が初めての活動に挑戦したり集中したりする姿がみられ、一年間の活動の見通しが持てた。</li> <li>・生徒の実態に応じたグルーピングや授業内容を工夫し、記録を引き継げるようにする。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は、検索ツールとしてだけでなく、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用までは充分ではない</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が意欲的に取り組み、ICTや活用の基礎を学ぶこと</li> </ul>

		実践の記録ツールや自分の考えの発信ツールとして ICT を使っている。	が、動画作成、文書作成等を行い、自分の考えを発信できた。		<p>ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の記録、まとめとしてさらに活用していきたい。</li> </ul>
イ	社会の変化に対応し、人、もの、ことに対する想像力を育てる教育の実践	・生徒は緊急時に自分がとるべき対応がわかり、命を守る行動がとれている。	・学習はしてきたが SOS を出したり自分から守る行動をとったりする力が弱い。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練や学習を行ってきたので、対応方法については学ぶことができた。</li> <li>・生徒自身のコミュニケーション力や助けを求める力を高めていきたい。</li> </ul>
		・生徒は、自他を大切に思う発信ができています。	・充分とは言えないが、少しずつ発信できるようになってきた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで学年で協力して取り組む活動を行ったことが、自他の大切さに繋がってきた。</li> <li>・発信する力、相手を思いやるためにも、自己理解するための学習をする。</li> </ul>
		・生徒は、性や食に関心を持ち、自分を大切にしている生活ができている。	・自分のこととして考える意識がまだ低い。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健、家庭で扱ったことで、自分のこととして考える機会が増えた。</li> <li>・保健や家庭科の学習のつながりや積み重ねを踏まえての年間指導計画の見直しをする。</li> </ul>
	柔軟でたくましい心と体を育む体育と情操教育の充実	・生徒は、体育・音楽・美術の授業や学校行事で、自分や友達の良さを見つけ、仲間と取り組む楽しさを味わいながら発信しあったりする中で、共に影響しあっている。	・生徒は仲間と取り組むことで達成感や満足感を味わうことができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなこと、楽しいこと、得意なこととして生徒が活動し、生徒同士の関わりや自主的に取り組む姿が見られた。</li> <li>・今年度の取り組みや成果を記録として残し、次年度やこれからの活動として引き継げるようにする。</li> </ul>
ウ	地域と目的を共有する開かれた学校づくり	・小山町民や近隣関係機関の方が小山分校生徒の教育活動について知っている。	・様々な活動に参加、様子を発信したので分校のことを知ってもらう	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクール、新聞、ホームページ、インスタグラム等情報発信を行い、分校のことを知ってもらうことができた。今後、どのような活動を</li> </ul>

			ことができた。		して、どんな学校なのかを発信し、知ってもらおう。
		・小山高校の教員は、生徒理解や支援に有益な情報を得ることができている。	・生徒と同じで一緒に活動することで分校生のことを知ってもらえることができた。	A	・学校行事だけでなく、体育の授業や委員会活動、部活動など一緒に参加することで、分校生のことを理解してもらえた。 ・今年度一緒に取り組んだことを基に、内容、方法について検討しながら、計画的に進めるようにする。
エ	働きやすい職場環境で、やりがいを感じ、ワークエンゲージメントの向上を実現するチーム作り	・教職員は、自分の事務研修(空き)時間を活用し、帰宅時刻を自分で決めて、気持ちよく働くことができている。	・事務時間を活用したり、職員で協力して対応したりでき、気持ちよく働くことができた。	A	・職員で活動には、協力、連携、して対応しているので、新しい活動にチャレンジしたり、やりがいを持って働いたりすることができた。 ・授業、会議等の時間を早めに提案し計画的に進めるようにする。
		・教職員は、各自研修テーマを持ち、主体的に研修している。	・開校という新しい環境の中で各自テーマを持って実践をした。	A	・自分の業務に責任を持ち、目的をもって授業、分掌に取り組んだ。 ・キャリア教育の視点を持ち、組織的な研修に取り組めるようにする。

(2) 7年度を取組目標・達成方法・成果目標 (ゴシック体は重点目標)

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当部署
ア	自分と人を大切に する学校づくり	・挨拶の励行と自他を大切に する支援の充実	・安心して学校生活を送ることが できたと答える児童生徒	生徒課
		・ポジティブタイム(不祥事根絶 研修)の活用	・児童生徒の模範となり、自 他を大切に、やりがいを感じる 教職員	学部 管理職

	命を守る、危機管理と安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な安全点検と環境整備による危機管理意識の向上</li> <li>・緊急時の対応や防犯防災訓練を活かし、危機管理マニュアルの活用と見直し</li> </ul>		生徒課 教務課 管理職
		・健康で丈夫な心身をつくる体育活動、食育、保健指導	・自分の心身の健康を守るために、努力する児童生徒	生徒課 教科会
イ	主体的に自分らしく学び合う授業づくり	・個々の実態把握とニーズに応じた自立活動の推進	・児童生徒の力を活かし、ニーズに応じた授業づくりができる教職員	研修課
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画を作成し、キャリア発達に適切な単元設定の実施と授業の充実</li> <li>・ICT活用スキル向上と対話と深い学びのための授業実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が楽しい、授業が分かる、夢中で取り組む、主体的に学ぶ児童生徒</li> <li>・児童生徒の学びを見取り適切な目標設定と評価ができる教職員</li> <li>・児童生徒がICT機器を活用して自分の思考を広げる授業づくりができる教職員</li> </ul>	教務課 生徒課
	豊かな心と表現力を高める教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術、表現活動の推進</li> <li>・読書や対話する時間に親しむ活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が表現する楽しさを味わう支援ができる教職員</li> <li>・自らの思いを伝え、表現する喜びや楽しさを感じる児童生徒</li> </ul>	学部 教科会
	学び合い、高め合うチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OJTやグループワーク等を活用した対話型研修の実施</li> <li>・目的を共有し、チームで創るプロジェクト型実践の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の専門性向上に自ら取り組むことができる教職員</li> <li>・主体的に学び合いの機会を作り、学校運営に参画し、チームとして協働する教職員</li> </ul>	学部 各分掌
ウ	キャリア発達をつなぐ学びと支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画に基づくキャリア教育の充実</li> <li>・児童生徒の願いと将来を見据えた進路指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の願いを保護者や関係機関と連携して育む支援ができる教職員</li> <li>・学部間のつながりを意識した適切な授業づくりと進路指導ができる教職員</li> </ul>	生徒課 キャリア支援課

<p>地域での学びと豊かな生活をつなぐ支援と発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と共に創る学校づくりの推進(交流活動、協働活動等)</li> <li>・芸術、スポーツ、作品展示、外部活動等、表現活動への参加</li> <li>・お便りや HP 等での広報・情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター的役割を活用し、地域との連携や貢献できる教職員、保護者</li> <li>・児童生徒が地域での学びに参加し、貢献できたと感じる教職員、保護者</li> </ul>	<p>学部 キャリア 支援課 学校運営 協議会</p>
------------------------------	---	---	---

#### 4 監査対象期間における特色ある取組

〈本校〉

年度	取組概要	成果及び課題
6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会委員に本校で行う避難訓練を見学してもらい、防災教育について御意見をもらう。</li> <li>・夏季休業中の7月30日に職員防災研修を計画し、分掌ごと校内の防災備品の扱い方を確認するとともに、御殿場市危機管理課の方を招いて起震車の体験をすることで防災意識を高める。</li> <li>・学校運営組織を目的とした若手職員の育成を図るため、運営委員会終了後、学部を越えた拡大主任者会や、分掌課長会を開催する。</li> <li>・学校経営につながる学部運営や学部への参画の仕方、分掌業務を進めるうえでの他分掌との連携を検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が児童生徒、職員の命を守るためにはどのような防災教育を計画し実践していくことが重要かを考えた。</li> <li>・学校にどのような災害対応備品があるのかを知り、全員が使用方法を確認することで、災害発生時に避難者に学校でどのような対応、支援ができるのかを考えた。</li> <li>・学年経営と学部経営のつながりや学校学部経営への参画を図り、学校運営の改革と業務の精選に努めた。</li> <li>・分掌業務の進捗状況や分掌経営での工夫を話し合い、他分掌との関係性にも目を向け、業務の重なりや精選について考えた。</li> </ul>

年度	取組概要	成果及び課題
7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OJTやグループワーク等を活用した対話型研修を年次別研修者や不祥事根絶研修に取り入れて実施する。</li> <li>・目的を共有し、チームで創るプロジェクト型実践を推進していく。</li> <li>・地域と共に創る学校づくりの推進をしていく。学校運営協議会を活用し、「地域との連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部内、運営委員会のメンバー、拡大主任者会のメンバーとターゲットを絞り、テーマを基にグループワークを行い、学校経営に参画している。</li> <li>・「ふじはぐプロジェクト」を推進するために、地域づくりアドバイザーを招聘し、地域との協働について学びあうことができた。</li> <li>・学校運営協議会の委員に学校が地域や行政とどのように関わり児童生徒にとって</li> </ul>

	携協働～つながり～」をテーマに協議（熟議）を行う。	どのような効果があったのかを伝え、委員のそれぞれの立場から今後の学習の広がりや深まりを伺うことができた。
--	---------------------------	--

〈小山分校〉

年度	取組概要	成果及び課題
6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校内に設置された高等部分校として、普段の生活を共にし、教科や学校行事でつながる共生・共育を推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面式などの自己紹介や昼食での交流会からお互いを知ることができた。学校祭での文化、体育の発表活動を通して、さらに関わりが深まった。</li> <li>・分校生にとっては自分や友達の良さを見つけたり、仲間と一緒に取り組む楽しさを味わったりして、満足感、充実感を味わう体験となった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校づくりに向けて、地域資源の発掘や連携、学校運営協議会と協働した取組みを行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のある小山町の施設とつながり、「地域作業（ローカルワーク）」として作業を行っている。その他、こども園や老人施設ともつながり、清掃活動だけでなく園児、お年寄りとの活動も行っていく。</li> <li>・町のイベントへ参加し、地域の方、幅広い年齢層の方とかかわりを持った活動を今後、計画していきたい。</li> </ul>

年度	取組概要	成果及び課題
7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の敷地内に設置された高等部分校として、高校生と共に創る学校生活、幼保小中学校、地域施設との交流や情報発信と共生・共育を推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校祭に分校生として目標を持ち、制作や練習に取組み、発表や活動に取り組めた。昼食を共にするなど学校祭まで一緒に取り組む活動が少なかったこともあり、役割分担でなく協同の活動として取り組めるようにしたい。</li> <li>・HP、インスタグラム、店舗への絵画展示で生徒の活動の発信をし、生徒の良さ、学校のことを多くの方に知っていただくことができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校づくりに向けて、多種多様な方々、地域と協働的な学びの機会の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小山町の施設とつながり、「地域作業（ローカルワーク）」として作業を行っている。こども園や老人施設、小学校とも、清掃活動を通じてつながり、交流活動も行っていく。</li> <li>・町のイベントへ参加し、製品の販売、学校紹介と地域の方、幅広い年齢層の方とかかわりを持った活動を今後、行っていく。</li> </ul>

5 教職員について

(1) 異動状況

	区分	本務職員									
		校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	事務長	主査	主任	主事	計A
本校	転出				△ 24	△ 1		△ 1	△ 1		△ 27
	退職		△ 1		△ 3		△ 1			△ 5	
	退職(再任用)									0	
	転入		1		20		1	1		1	24
	昇任										0
	新任				4						4
	新任(再任用)										0
	差引増減	0	0	0	△ 3	△ 1	0	0	△ 1	1	△ 4

小山分校	転入				4						4
	新任										0
	差引増減	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4

	区分	臨時・会計年度任用職員										職員合計A+B
		教諭(任)	教諭(臨)	養護教諭(任)	栄養士(臨)	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	スクールカウンセラー	就労促進専門員	計B	
本校	転出	△ 2									△ 2	△ 29
	退職	△ 3	△ 4								△ 7	△ 12
	退職(再)										0	0
	転入										0	24
	昇任										0	0
	新任		4						1	1	6	10
	新任(再)										0	0
	差引増減	△ 5	0	0	0	0	0	0	1	1	△ 3	△ 7

小山分校	転入											4
	新任		1								1	1
	差引増減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5

(2) 現員数

(令和7年6月30日現在)

区分	本務職員										
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	主査	主任	主事	計A
本校	1	1	1	1	79	1	1	2	1	1	89
小山分校		1			10	1					12

区分	臨時・会計年度任用職員										職員合計A+B
	教諭(任)	教諭(臨)	養護教諭(任)	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	スクールカウンセラー	就労促進専門員		計B	
本校	2	8	1	2	7	4	1	1		26	115
小山分校		1			1					2	14

### (3) 健康管理について

#### ア 内容

職員の定期健康診断では、生活習慣病健診・人間ドック等の受診から結果を受けての事後措置までを確実にしている。また、日常の健康管理では、状態が悪化する前の予防や自己管理について職員が、学ぶ機会を設定している。さらに、健康管理医と連携を取り、職員の安全・衛生について検討することで、気になることや注意点などを確認している。

〈本校〉

#### 【令和6年度】

##### (ア) 定期健康診断の実施

育児休暇等の職員を除く定期健康診断受診率は100%であった。生活習慣病健診の日程が1日のみとなったが、問題なく、全員受診ができた。

##### (イ) 日常の健康管理

日常の健康管理については、特に腰痛予防・メンタルヘルスに配慮するよう自己管理を促した。例年同様の計画し、感染症の状況に応じた方法で実施した。

内 容 (実施回数等)
ア 腰痛検診、職場の健康づくり講座 (肩こり・腰痛)
イ 腰痛体操の推奨 (適宜)
ウ 管理職による面談・相談 (必要に応じて)
エ 心の健康相談窓口や面談カウンセリング・健康管理医との面談 (必要に応じて)

健康管理医からも「早めの受診」を勧められていることから、体調不良時は早めの受診ができるよう配慮している。ワークライフバランスの意識向上のため、時間外勤務の削減に努めた。退勤時刻の目安を具体的に19時30分とし、管理職から職員室全体に帰宅を呼びかけ、意識できるようにした。

##### (ウ) 学校職員安全衛生委員会

健康管理医を招いて、職員の安全衛生について協議を行った。協議の内、重要な事項については、個人パソコンの掲示板で確認できるようにした。

県からの通知等も参考に、協議内容を検討しながら委員会を行った。長時間労働者の把握を行い、職員の勤務状況について共有を図った。毎月時間外勤務の多い者を把握し、業務の偏りがいないか、業務が行き詰っていないかなどの声掛けの参考にした。

協 議 内 容			
第1回	内規の確認 年間計画の検討*校内巡視	第7回	長時間労働対策について
第2回	校内緊急対応訓練 進捗状況 職場の健康づくり支援事業テーマについて	第8回	感染症対策について*校内巡視
第3回	職場環境アンケートの検討 *校内巡視	第9回	勤務時間管理システム点検について
第4回	感染症対策 (環境設備・健康)	第10回	感染症対策について*校内巡視
第5回	物品の見直し (サーキュレーター等) ストレスチェックの実施	第11回	内規・来年度計画案について 学校設備・環境への対応状況
第6回	職員の健康状態及び施設について気が付いたこと *校内巡視	第12回	職員健康診断助言、来年度に向けて *校内巡視

#### 【令和7年度】

##### (ア) 定期健康診断の実施

定期健康診断及び再検査・精密検査の受診率100%を目指し、言葉掛けを行っている。再検査・精密検査が数か月後になる職員もいるため、一次健診を早く受けるよう呼びかけを行う。年間を通して健康管理医との連携を図り、職員の健康状態を把握し、指導助言していく。

(イ) 日常の健康管理

児童生徒の介助による腰痛を訴える職員は多いため、腰痛検診により状態の把握を行う。積極的な受診を促すとともに、健康づくり講座を企画するなど、職員が日常的なメンテナンスを意識できるよう働きかける。

メンタルヘルスへの対応については、管理職及び健康管理医と連携して行う。必要に応じて、専門機関への相談を促すようにする。早めの対応を心掛ける。また、組織的に時間外労働の削減に努める。

(ウ) 学校職員安全衛生委員会

職員の健康状態の把握を行うとともに、異常の早期発見、早期対応（治療）に努める。健康管理医との連絡を密に取り、日程変更等がある場合でも、月に一度、委員会を開催する。内容は、長時間労働の状況、各学部等の職員の健康状態、施設設備等の環境について気付いたことや改善すべきことについて報告を行った上での協議がメインである。健康管理医からも、随時御助言をいただき、健康管理や、環境整備に努めている。

イ 成果・課題

(令和6年度 成果)

受診率は100%で、再検査・精密検査の対象職員も全て報告が上がっている。

施設については、職場環境アンケートから改善、修繕箇所を見つけ、事務と連携をして対応ができた。健康管理医から指導・助言をいただき、環境整備に活かすことができた。

(令和7年度 課題)

定期健康診断の要再検査者が受診を済ませるまでに時間を要するため、早めの受診を呼びかけていく。職員休養室が周知できていないため、設備や周知方法について検討していきたい。また、職員の熱中症対策についても施設や環境面の見直しを行っていきたい。

〈小山分校〉

【令和6年度】

(ア) 定期健康診断の実施

定期健康診断及び再検査・精密検査の受診率100%であった。

(イ) 日常の健康管理

各検診により状態の把握を行うにし、積極的な受診を促すとともに、健康づくり講座を企画するなど、職員が日常的なメンテナンスを意識できるよう働きかけた。

メンタルヘルスへの対応については、管理職及び健康管理医と連携して行うことができた。

(ウ) 学校職員安全衛生委員会

職員の健康状態の把握を行うとともに、異常の早期発見、早期対応（治療）に努めた。

【令和7年度】

(ア) 定期健康診断の実施

定期健康診断及び再検査・精密検査の受診率100%を目指し、言葉掛けを行っている。年間を通して健康管理医との連携を図り、職員の健康状態を把握し、指導助言していく。

(イ) 日常の健康管理

各検診により健康状態の把握を行うこととし、積極的な受診を促す。また、健康づくりのための啓発活動を行う。メンタルヘルスへの対応については、管理職及び健康管理医と連携して行う。必要に応じて、専門機関への相談を促すようにする。早めの対応を心掛ける。また、組織的に時間外労働の削減に努める。

(ウ) 学校職員安全衛生委員会

職員の健康状態の把握を行うとともに、異常の早期発見、早期対応（治療）に努める。健康管理医との連絡を密に取り、月に一度、委員会を開催する。協議は、長時間労働の把握、各学部等の職員の健康状態の報告を行い、気付いたことや改善すべきことについて報告を行う。また、健康管理や、環境整備に努める。

(エ) これまでの経過

(令和7年度)

定期健康診断の要再検査者が受診を済ませるまでに時間を要するため、早めの受診を呼びかけていく。開校からの業務で体調を崩す職員がでてきたため、連携体制や業務分担を行い、早めの対応を行ったり、日ごろから声をかけたり職員安全衛生委員会で職員の状態、情報を共有していく。

(4) 教職員の研修について

(本校)

【令和6年度】

ア 令和元年度からの4年間は、「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」をテーマに掲げ研修に取り組み、児童生徒の視点から単元構想を練ることや、児童生徒の思考に沿った授業づくりを行うことに課題が残った。

そこで令和5年度から2ヶ年計画で、より児童生徒の思考に沿った授業づくりを行い、一人一人が「自分らしく学ぶ姿」を引き出すことを目指している。これまで取り組んできたPDCAサイクルの授業づくりをベースに、①生活課題を捉えて活動を設定すること、②「個別最適な学び・協働的な学び」の一体的な充実の視点から学びを想定することに着目した授業づくりを行う。

上記のような授業づくりを通して学校教育目標「自分らしく のびやかに たくましく」に迫りたいと考え、本研修テーマを「一人一人が『自分らしく学ぶ』授業づくり」と設定した。

目 的	内 容	成 果・課 題
一人一人が『自分らしく学ぶ』授業づくりを目指す。	a 全体研修 ・研修テーマや方法、成果を共有する全体研修会（年2回） ・定期訪問 ・教材展示 ・はごろも『夢』講演会（8月2日） b グループ研修 ・各グループで作成した「単元・授業づくりシート」を用いた授業づくり ・各グループのニーズに応じた学習会の実施 ・外部講師を招聘した授業研修会（各グループ年2回） c 公開授業研究会（11月20日）	・5月に実施した全体研修により、研修の方法や今年度の重点等について共通理解を図ることができた。 ・定期訪問を7月に実施し、本校の研修の良さを再確認するとともに、新しい視点を示唆いただき、全職員で共有することができた。 ・高等部（知的）グループで講師招聘研修を行い、職業の内容に関する理解や、生徒の学びの見取りについて研修を深めた。講師招聘研修については、各グループで順次実施予定。 ・評価規準や評価計画の設定については、P年計を用いており、教務課と連携して推進していく必要がある。

【令和7年度】

ア 令和5年度からの2年間は、一人一人が「自分らしく学ぶ」授業づくりをテーマに、「個別最適・協働的な学び」に着目した研修に取り組み、それらの「学び」と、それを支える仕掛けや支援は、日々の授業実践の中に根付いていること、また、「生活課題を捉えた活動設定」にさらなる進化の余地があることが確認できた。

そこで、令和7年度からは、学習集団としての生活課題（児童生徒自身が必然性や、やりがいを感じるもの）を捉えたテーマ設定が要となる教科等を合わせた指導を窓口に、一人一人が「主体的に、自分らしく学び合う」姿を目指すこととした。

この姿に迫るために、児童生徒のAARサイクルに着目し、Anticipation（見通し）、Action（行動）、Reflection（振り返り）のサイクルで児童生徒の思考の過程や必要な手立てを想定した授業実践に取り組むことで、児童生徒にとって、必然性ややりがいを感じながら主体性に学ぶことができるものになっていくと考える。また、キャリア発達の視点を取り入れた授業づくりに取り組むことで、教科等を合わせた指導を学校教育目標「自分らしく のびやかに たくましく」に迫ることができると考え、本研修テーマを設定した。

目 的	内 容	成 果・課 題
一人一人が『主体的に、自分らしく学び合う』授業づくりを目指す。	<p>a 全体研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修テーマや方法、成果を共有する全体研修会（年2回）</li> <li>・教材展示</li> <li>・はごろも『夢』講演会（8月6日）</li> <li>・外部講師による「AARサイクル学習会」（8月25日）</li> <li>・講師（分校教諭）による「自立活動学習会」（年2回）</li> <li>・定期訪問（10月29日）</li> <li>・全学部教員を小グループに分けてキャリア教育について学ぶ「つながり学習会」</li> </ul> <p>b 学部研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学部共通の書式「AARサイクル見取りシート」を用いた授業づくり</li> <li>・外部講師を招聘した授業研修会（各学部年年2回）</li> <li>・AARサイクル見取りシートを用いた授業を参観し合う「1人1実践」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に実施した全体研修により、研修の方法や今年度の重点等について共通理解を図ることができた。</li> <li>・自立活動学習会については、肢体不自由児を中心にあらゆる児童生徒の支援について学ぶことができた。</li> <li>・全学部で講師招聘研修を行い、各教科等を合わせた指導についての単元の作り方や児童生徒の見取り方、授業改善の方法などについて学ぶことができた。AARサイクルについても理解を深めることができた。</li> <li>・AARサイクル見取りシートを用いた授業を参観し合う「1人1実践」については、まだ実施職員は1割程度。順次、実施予定。</li> <li>・キャリア教育については、つながり学習会において、小中学部、高等部の生徒の発達段階を見比べることで学ぶことができると良い。</li> </ul>

〈小山分校〉

【令和6年度】

ア 令和6年度に高等部分校として開校し、作業学習を中心とした授業づくりを行った。作業学習では、

ものづくりを行ったり、地域へでて様々な人や施設とかかわったりするローカルワークに取り組んでいく。様々な人やもの、事柄に関わりながら、学習を進め、授業で一人一人が「自分らしさを発揮する姿」を引き出すことを目指す。自分らしさを発揮するためには、成就感や自信を味わい、自分の得手不得手を知ったりすることが必要になる。作業学習で、どのような活動やかかわりをしていくことが、自分らしさを発揮することにつながるのか考えて実施した。

上記のような授業づくりを通して学校教育目標「自分らしく のびやかに たくましく」に迫りたいと考え、本研修テーマを「人、もの、こととかかわり、自分らしさを発揮する作業学習の授業づくり」と設定した。

目 的	内 容	成 果・課 題
『人、もの、こととかかわり、自分らしさを発揮する作業学習の授業づくり』を目指す。	a 全体研修 ・研修テーマや方法、成果を共有する全体研修会（年2回） b グループ研修 ・学年、分掌など構成するグループのメンバーを変え、話し合いを行う。 c 授業研究を行う。	・4月からの取組みのため、内容を十分に共有することは難しかった。 ・後期に向けて製品や地域作業先など本格的に進めていきたい。

#### イ 専門性向上を図る研修

目 的	内 容	成 果・課 題
・キャリアに応じた特別支援教育に係る専門知識の習得。	a 外部講師による指導の活用（清掃活動、作業製品づくりにおける技術指導） b 校外研修をした職員からの校内伝達研修会の実施 c N E S 掲示板等を活用した教材教具、書籍、外部研修会の紹介 d 本校と連携した研修の取組みを行う。	・後期に向けて作業班の活動内容と製品の開発を進めていく。 ・掲示板や職員会議等で伝達講習の実施をしていく。 ・書籍や外部研修会の紹介、研修会への参加など、自己研鑽につなげていきたい。 ・職員が増えていく次年度以降へ向けて、体系的な研修の計画が立てられるようにする。

#### 【令和7年度】

ア 昨年度の研修を受けて、今年度は自主的に取り組むことからさらに、自分で考えて主体的に取り組む姿を目指したいと考えた。そこで今年度はAARサイクル（見通し→行動→振り返り）を取り入れていく。なぜこの学習に取り組むのかということを考え、どのように行動したらよいかを見通しをもって行動できるようになることが大切だと考える。そして振り返りでは、自分自身や他者の行動を客観的に評価し、自分がどう行動するとよいか、次に何をすればよいかを考え、主体的に次の活動に取

り組む力をつけていきたい。

このように、学習において人、もの、こととかかわり、自分で考え主体的に取り組んだり、客観的に自分のことを振り返ったりすることで、自己理解を高めることにつながると考える。人やものとの適切なかわり方を身につけ、自己理解を高めていくことで、自分の良さや強さを発揮する姿を目指していきたい。そこで研究テーマを、「人、もの、こととかかわり、自分らしさを発揮する姿を求めて」と設定した。

目 的	内 容	成 果・課 題
『人、もの、こととかかわり、自分らしさを発揮する姿を求めて』	a 全体研修 ・研修テーマや方法、成果を共有する全体研修会（年2回） ・定期訪問 ・作業学習について（講師招聘） b グループ研修（作業班グループ） ・各グループでAARサイクルに沿った学びを展開するための支援や授業について協議をする。 ・単元や学期ごとに作業グループで協議し、AARサイクルを踏まえ、年間指導計画作成に活かす。	・窓口は変更しないが、AARサイクルを取り入れ、より生徒が主体となって取り組む授業づくりを行っていく。 ・定期訪問を6月に実施し、生徒の取り組む姿勢で成長を感じられた。研修内容、方法について具体的に指導していただいた。 ・多様な人材を活用し、各作業グループに応じた専門的な指導を今後、行っていく。 ・AARサイクルについての研修を深め、授業づくり、年間指導計画の作成へ活かしていきたい。

## 6 防災対策について

〈本校〉

学校の状況として把握すべきことを確認し、学校の所在地の特徴、南海トラフ地震等の自然災害の被害想定及び大規模災害発生に備え、教職員の校内組織の編成と仕事内容の整理、防災計画の見直し等を重点として取り組んだ。

さらに、富士山噴火時や火災発生時、発災時の福祉避難所開設と学校再開など様々な事例に対応できるマニュアル作りを進め、以下の基本方針を元に教職員一同一丸となって防災意識を高めていく努力をした。

- (1) 校長を総指揮とする校内災害対策本部を設置し、防災に関する計画を立案した。
- (2) 校内防災組織を編成し、御殿場市防災対策本部、地域防災組織等との連携を密に取り組んだ。
- (3) 学校防災計画について保護者からの理解と協力を得られるようにした。夏期休業中には、避難所設営演習と起震車体験を実施した。
- (4) 非常防災設備の定期点検を行った。また、災害時に備えた備品、備蓄品の見直し、拡大を計画的に進めた。
- (5) 児童生徒の生命を守ることを第一に考え、教職員の判断力を高めたり、校内組織を整理したりするとともに、より実際的な避難訓練を通して安全で統制の取れた行動を積み重ねた。あわせて防災教

育を充実させ、全校体制で系統的に学んでいく仕組みを作った。

(6) 発災時の運営マニュアルの見直しと、学校再開に向けた計画の作成、他機関との連携の強化に努めた。

【令和6年度】

ア 目標

(ア) 児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、防災・防犯・安全教育の充実を図る。

(イ) 教職員の防災・防犯意識の向上と想像力を働かせた避難訓練の実施をする。

イ 取組計画

実施(予定)日	想 定	取組み内容	対象者
令和6.4.30	南海トラフ地震発生	避難訓練、避難経路確認(地震発生から一次避難まで)	全教職員 児童生徒
令和6.5.2	引き渡し訓練	新入生、転入生を対象とした引き渡し訓練を行う。	教職員 保護者
令和6.6～10月	災害時における安否確認	災害伝言ダイヤル、災害用web利用訓練を行う。	保護者 全教職員
令和6.7.18	地域での防災連絡会議へ参加	災害時における協力体制の確認を行う。	教頭
令和6.7.8	火災発生	避難訓練と同時に安全教育を行う。	全教職員 児童生徒
令和6.7.30	教職員防災講座	県東部危機管理局の方による出前防災講座の開催をする。	全教職員
令和6.7.30	避難所設営演習 地震発生 朝のスクールバス運行時(地震) 起震車体験	災害発生後、福祉避難所として開設することとなったことを想定し、班別活動の確認をする。 スクールバス介助員を交えて地震発生時の対応訓練を行う。起震車の体験をする。	全教職員 拡大防災委員 生徒指導課員 スクールバス介助員
令和6.9.2	南海トラフ地震発生	災害発生からの1次避難	全教職員 児童生徒
令和6.10.22	御殿場市防災リーダー等ステップアップ研修参加	防災知識、市の防災体制について学ぶ。	教頭
令和6.10.29	富士山噴火訓練	避難訓練、避難経路確認(富士山噴火から一次避難まで)	全教職員 児童生徒
令和7.1.14	火災発生・消火	避難訓練と同時に安全教育を行う。御殿場消防署富士岡分署と協力し、消火器、放水訓練、スモークハウス体験を行った。	全教職員 児童生徒

ウ 重点課題

・児童生徒自ら自分の命を守る力をつける防災学習を実施する。

- ・児童生徒の発達段階や個々の特性等を踏まえ、児童生徒自ら気づき解決する防災学習を提案する。
- ・実際の場面に即した訓練を重ねたり、研修を受けたりすることで、教職員の防災・防犯意識を高める。

#### 【令和7年度】

#### ア 目標

- (ア) 児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、防災・防犯・安全教育の充実を図る。
- (イ) 教職員の防災・防犯意識の向上と想像力を働かせた避難訓練の実施をする。

#### イ 取組計画

実施(予定)日	想 定	取り組み内容	対象者
令和7.5.1	引き渡し訓練	新入生、転入生を対象とした引き渡し訓練を行う。	教職員 保護者
令和7.6～10月	災害時における安否確認	災害伝言ダイヤル、災害用web利用訓練を行う。	保護者 全教職員
令和7.6.30	地域での防災連絡会議へ参加	災害時における協力体制の確認を行う。	教頭
令和7.7.10	火災発生	避難訓練と同時に安全教育を行う。	全教職員 児童生徒
令和7.7.30	教職員防災講座	県東部危機管理局の方による出前防災講座の開催をする。	全教職員
令和7.8.1	避難所設営演習 地震発生 朝のスクールバス運行時(地震) 起震車体験	災害発生後、福祉避難所として開設することとなったことを想定し、班別活動の確認をする。 スクールバス介助員を交え、地震発生時の対応訓練を行う。起震車の体験をする。	全教職員 拡大防災委員 生徒指導課員 スクールバス介助員
令和7.9.1	南海トラフ地震発生	災害発生からの1次避難を行う。 171ダイヤル体験を行う。	全教職員 児童生徒
令和7.10月	御殿場市防災リーダー等ステップアップ研修参加	防災知識、市の防災体制について学ぶ。	教頭
令和7.11.11	火災発生・消火	避難訓練と同時に安全教育を行う。消防体験をする。	全教職員 児童生徒
令和8.1.8	富士山噴火訓練	避難訓練、避難経路確認(富士山噴火から一次避難まで)	全教職員 児童生徒

#### ウ 重点課題

- ・児童生徒自ら自分の命を守る力をつける防災学習を実施する。
- ・児童生徒の発達段階や個々の特性等を踏まえ、児童生徒自ら気づき解決する防災学習を提案する。
- ・実際の場面に即した訓練を重ねたり、研修を受けたりすることで、教職員の防災・防犯意識を高める。
- ・近隣施設等と、地域コミュニティとしての防災体制の構築が必要であると考えられる。そのため、

令和7年度は近隣との打ち合わせや研修の場を作っていきたいと考えている。

〈小山分校〉

学校の状況として把握すべきことを確認し、学校の所在地の特徴、南海トラフ地震、相模トラフ地震等の自然災害の被害想定及び大規模災害発生に備え、教職員の校内組織の編成と仕事内容の整理、併置する小山高等学校と防災計画を共有し連携、協力して取り組んでいく。

さらに、富士山噴火時や火災発生時、発災時の地域の避難所開設と学校再開など様々な事例に対応できるマニュアル作りを進め、以下の基本方針を元に小山高等学校と連携、協力し、教職員は防災意識を高めていく努力をする。

- (1) 校内災害対策本部を設置し、防災に関する計画を立案する。
- (2) 校内防災組織を編成し、御殿場市防災対策本部、地域防災組織等との連携を密に取り組む。
- (3) 学校防災計画について保護者からの理解と協力を得られるようにする。懇談会やcocooで保護者へ周知していく。
- (4) 非常防災設備の定期点検を行い、災害時に備えた備品、備蓄品の見直し、拡大を計画的に進めていく。
- (5) 生徒の生命を守ることを第一に考え、教職員の判断力を高めたり、校内組織を整理したりするとともに、小山高等学校とより実際的な避難訓練を通して安全で統制の取れた行動を積み重ねるようにする。
- (6) 発災時の運営マニュアルの見直しと、学校再開に向けた計画の作成、他機関との連携の強化に努める。

【令和6年度】

ア 目標

- (ア) 生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、防災・防犯・安全教育の充実を図る。
- (イ) 教職員の防災・防犯意識の向上と想像力を働かせた避難訓練の実施をする。

イ 取組

実施(予定)日	想 定	取り組み内容	対象者
令和6.4.12	火災避難訓練	避難訓練、避難経路の確認	全教職員 生徒
令和6.8.30	地震避難訓練	小山高等学校と合同で実施。避難後に各地区で集合。	全教職員 生徒
令和6.9月	救急法講座	校内職員講師による救急法講習	全職員
令和6.8.2	教職員防災講座	県東部危機管理局の方による出前防災講座を受講する。	全教職員
令和6.8.30	防災訓練	避難訓練と同時に安全教育を行う。	全教職員 生徒

ウ 重点課題

- ・児童生徒自ら自分の命を守る力をつける防災学習を実施する。
- ・児童生徒の発達段階や個々の特性等を踏まえ、児童生徒自ら気づき解決する防災学習を提案する。
- ・実際の場面に即した訓練を重ねたり、研修を受けたりすることで、教職員の防災・防犯意識を高める。

## 【令和7年度】

### ア 目標

- (ア) 生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、防災・防犯・安全教育の充実を図る。
- (イ) 教職員の防災・防犯意識の向上と想像力を働かせた避難訓練の実施をする。

### イ 取組計画

実施(予定)日	想 定	取り組み内容	対象者
令和7.4.11	火災避難訓練	避難訓練、避難経路の確認	全教職員 生徒
令和7.8.29	地震避難訓練	小山高等学校と合同で実施。避難後に各地区で集合。	全教職員 生徒
令和7.9.8	救急法講習	消防署職員講師による救急法講習	生徒
令和7.10.8	救急法講習	消防署職員講師による救急法講習	全教職員

### ウ 重点課題

- ・生徒自ら自分の命を守る力をつける防災学習や訓練時には事前事後指導や振り返りを実施する。
- ・生徒の発達段階や個々の特性等を踏まえ、生徒自ら気づき解決する防災学習を提案する。
- ・実際の場面に即した訓練を重ねたり、研修を受けたりすることで、教職員の防災・防犯意識を高める。
- ・小山高校と共同で訓練や講習を実施し、役割の確認や協力、連携した体制づくりを行う。

## 7 学校開放について

実績なし

□□□□□□□□

## 事 務 執 行 の 根 拠 法 令 調

項 目	根 拠 法 令
<p>学校教育に関する こと</p>	<p>教育基本法（第1条、第2条、第5条）            学校教育法（第1条、第2条、第3条、第45条、第47条、第48条            第49条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条）            学校教育法施行規則            学校保健安全法（第5条）            学校給食法（第4条）            特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する            法律（第3条）            静岡県立学校設置条例            静岡県立特別支援学校学則            特別支援学校小学部・中学部学習指導要領            特別支援学校高等部学習指導要領            静岡県就学指導委員会規則</p>
<p>学校の管理・運営 に関すること</p>	<p>学校教育法（第76条、第137条）            地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条）            静岡県立学校管理規則            教育公務員特例法（第21条、第22条）            学校保健安全法（第7条、第8条、第9条、第15条、第27条）            静岡県立学校職員安全衛生管理規程            静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱            静岡県教育委員会処務規程</p> <p>特別支援学校への就学奨励に関する法律            特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令            特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則            特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費            補助金交付要綱            要保護及準要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨            励費補助金交付要綱</p>

□□□□□□

## 学 校 施 設 の 概 要

### 1 面積及び所有区分

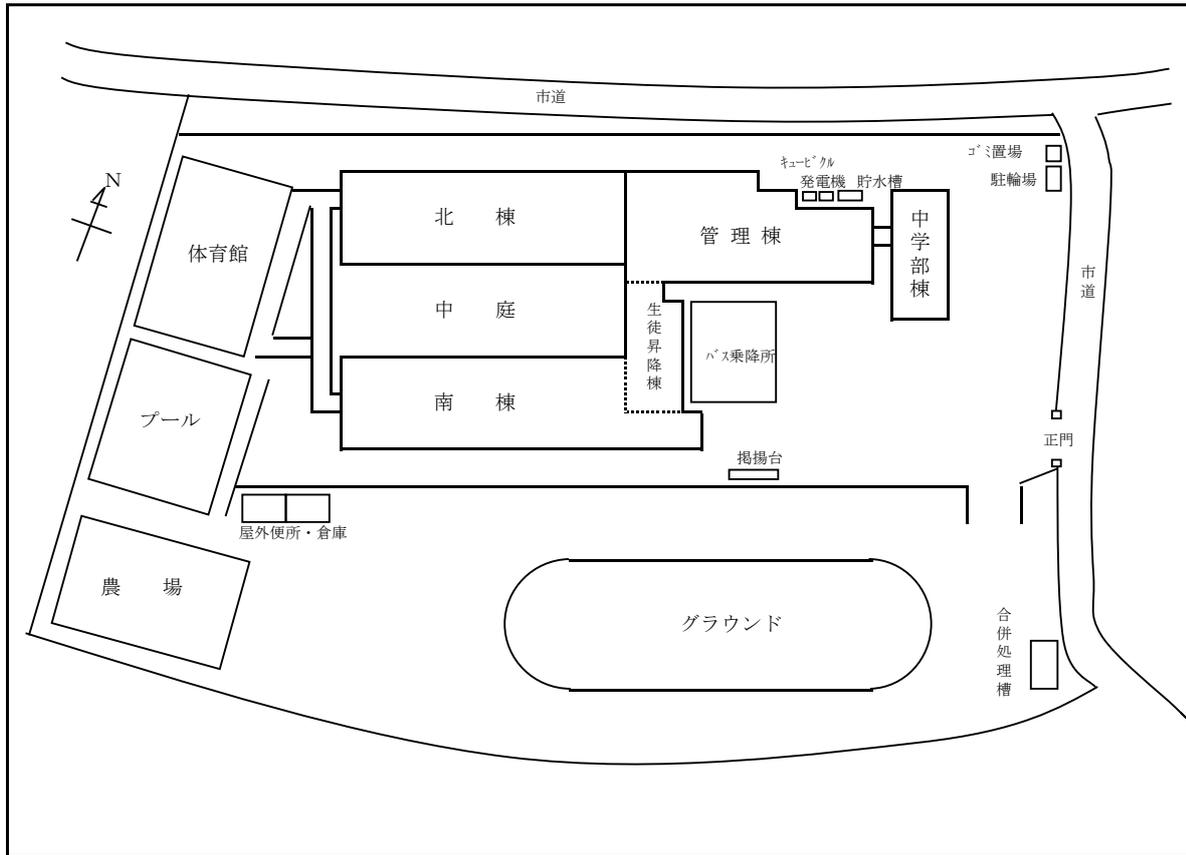
(令和7年6月30日現在)

区 分	面 積 m <sup>2</sup>	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m <sup>2</sup>	国 有 m <sup>2</sup>	市町村有 m <sup>2</sup>	後援会有 m <sup>2</sup>	民 有 m <sup>2</sup>	
学 校 敷 地	18,019.53	18,019.53					本校 18,000.05m <sup>2</sup> 小山分校 19.48m <sup>2</sup> 小山高校使用承認
内 訳	校 舎 敷 地	13,398.25	13,398.25				本校 13,398.25m <sup>2</sup>
	運 動 場 敷 地	4,238.80	4,238.80				本校 4,238.80m <sup>2</sup>
	そ の 他 の 敷 地	382.48	382.48				本校 363.00m <sup>2</sup> 小山分校 19.48m <sup>2</sup> 小山高校使用承認
校 舎	建 4,091.56	4,091.56					本校 健 3,470.48m <sup>2</sup> 延 5,621.31m <sup>2</sup> 小山分校 建 621.08m <sup>2</sup> 延 621.08m <sup>2</sup> 小山高校使用承認
	延 6,242.39	6,242.39					
体 育 館	建 549.50	549.50					本校 建 549.50m <sup>2</sup> 延 549.50m <sup>2</sup>
	延 549.50	549.50					
そ の 他 の 建 物	建 387.65	387.65					本校 建 387.65m <sup>2</sup> 延 387.65m <sup>2</sup>
	延 387.65	387.65					
プ ー ル	25m×8m						本校 25m×8m 10m×5m
	10m×5m						

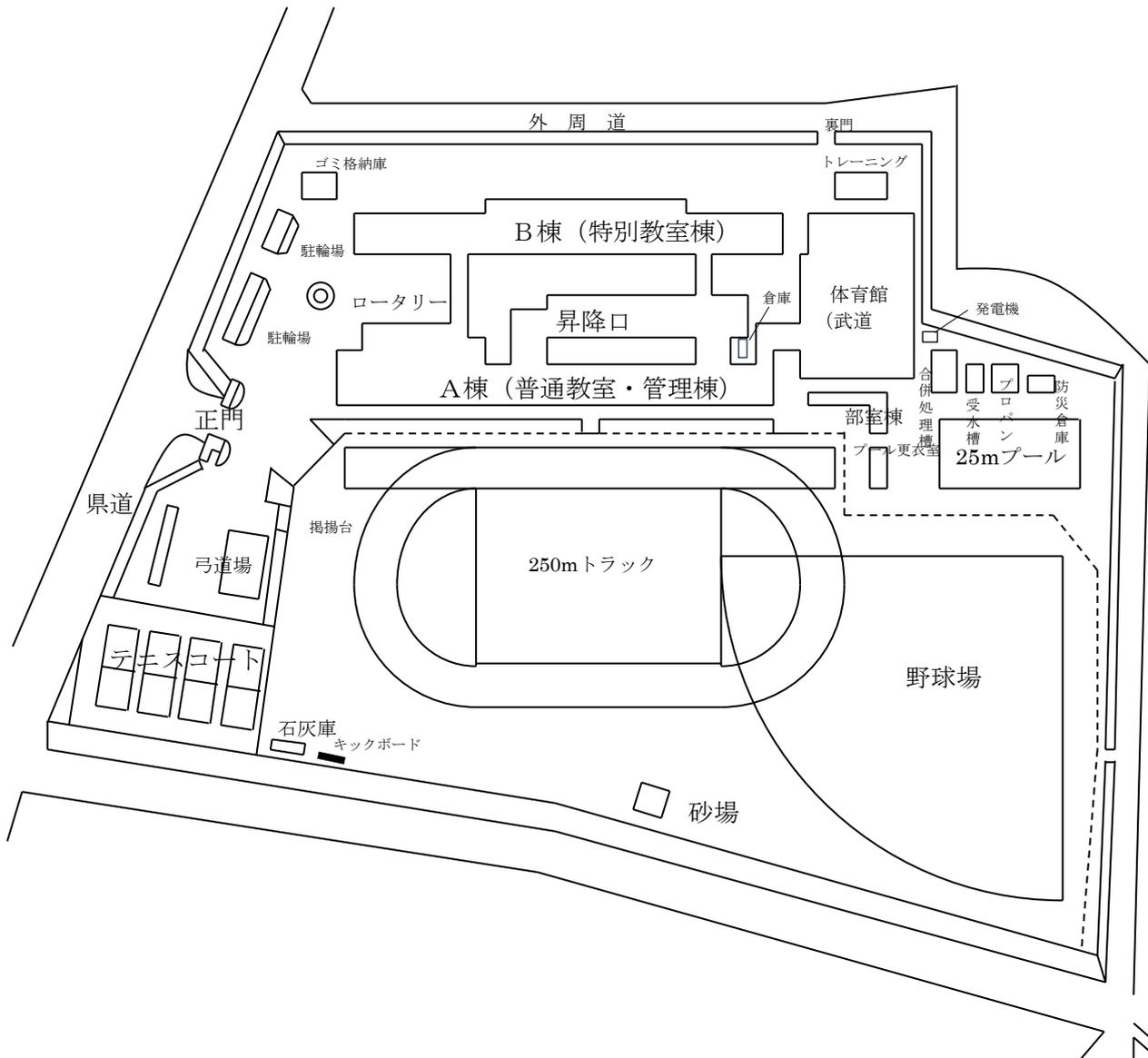
## 2 配置・規模等

### (1) 校舎等の配置図

本校



小山分校



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
本校	18,000.05 m <sup>2</sup>	5,621.31 m <sup>2</sup>	4,238.80 m <sup>2</sup>
小山分校	19.48 m <sup>2</sup>	621.08 m <sup>2</sup>	
県平均	19,266.88 m <sup>2</sup>	6,361.36 m <sup>2</sup>	5,302.07 m <sup>2</sup>

在 籍 生 徒 調

本校

(令和7年6月30日現在)

学部	学年	区分	定員	男子	女子	計
小学部	1年	入学者	—	8	4	12
		増加				
		減少				
		現在		8	4	12
	2年	入学者	—	5	2	7
		増加				
		減少				
		2年時当初		5	2	7
		増加				
		減少				
		現在		5	2	7
	3年	入学者	—	9	2	11
		増加				
		減少				
		2年時当初		9	2	11
		増加				
		減少				
		3年時当初		9	2	11
		現在		9	2	11
	4年	入学者	—	4	5	9
		増加				
		減少		1		1
		2年時当初		3	5	8
		増加				
		減少				
		3年時当初		3	5	8
		増加			1	1
		減少		1	1	2
		4年時当初		2	5	7
		増加				
	減少			1	1	
		現在		2	4	6
	5年	入学者	—	10	4	14
		増加				
		減少				
		2年時当初		10	4	14
		増加				
		減少		1		1
		3年時当初		9	4	13
		増加		1		1
		減少				
		4年時当初		10	4	14
		増加				
		減少		1		1
			5年時当初		9	4
		増加				
		減少				
		現在		9	4	13
	6年	入学者	—	4	3	7
		増加				
		減少				
		2年時当初		4	3	7
		増加				
		減少				
		3年時当初		4	3	7
		増加				
		減少			1	1
4年時当初			4	2	6	
増加						
減少						
5年時当初			4	2	6	
増加						
減少						
	6年時当初		4	2	6	
	増加					
	減少					
	現在		4	2	6	
	合計		37	18	55	

学部	学年	区分	定員	男子	女子	計
中 学 部	1年	入学者	—	12	4	16
		増加				
		減少				
		現在		12	4	16
	2年	入学者	—	11	6	17
		増加				
		減少		1		1
		2年時当初		10	6	16
		増加				
		減少				
		現在		10	6	16
	3年	入学者	—	10	5	15
		増加				
		減少		1		1
		2年時当初		9	5	14
		増加				
		減少				
3年時当初			9	5	14	
増加						
	減少					
	現在		9	5	14	
合計				31	15	46
高 等 部	1年	入学者	24	14	4	18
		増加				
		減少				
		現在		14	4	18
	2年	入学者	24	9	8	17
		増加				
		減少		1		1
		2年時当初		8	8	16
		増加				
		減少				
		現在		8	8	16
	3年	入学者	24	15	6	21
		増加				
		減少		1		1
		2年時当初		14	6	20
		増加				
		減少				
3年時当初			14	6	20	
増加						
	減少					
	現在		14	6	20	
合計				36	18	54
総合計				104	51	155

小山分校

(令和7年6月30日現在)

学部	学年	区分	定員	男子	女子	計
高 等 部	1年	入学者	16	7	6	13
		増加				
		減少				
		現在		7	6	13
	2年	入学者	16	13	2	15
		増加				
		減少		1		1
		2年時当初		12	2	14
		増加				
		減少				
	現在		12	2	14	
合計				19	8	27

□□□□□□

## 入学志願者及び入学者数調

本 校

区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
学 部 別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		36	36	24	24	24
総募集者数 (B)		36	36	24	24	24
志願者数	男	11	18	15	9	14
	女	17	12	6	8	4
	計 (C)	28	30	21	17	18
受検者数	男	11	18	15	9	14
	女	17	12	6	8	4
	計 (D)	28	30	21	17	18
合格者数	男	11	18	15	9	14
	女	17	12	6	8	4
	計 (E)	28	30	21	17	18
志願倍率 (C)/(B)		0.78	0.83	0.88	0.71	0.75
受検倍率 (D)/(B)		0.78	0.83	0.88	0.71	0.75
入学者数	男	11	18	15	9	14
	女	17	12	6	8	4
	計 (F)	28	30	21	17	18
充足率 (F)/(A)		0.78	0.83	0.88	0.71	0.75

□□□□□□

### 入学志願者及び入学者数調

小山分校

区 分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
学 部 別	高等部	高等部	高等部	高等部	高等部	
生徒定員 (A)	/	/	/	16	16	
総募集者数 (B)				16	16	
志願者数				男	13	7
				女	2	6
				計 (C)	15	13
受検者数				男	13	7
				女	2	6
				計(D)	15	13
合格者数				男	13	7
				女	2	6
				計 (E)	15	13
志願倍率 (C)/(B)				0.94	0.81	
受検倍率 (D)/(B)				0.94	0.81	
入学者数				男	13	7
				女	2	6
	計(F)	15	13			
充足率 (F)/(A)	0.94	0.81				

□□□□□□□□

卒業生の動向調

区 分	中 学 部	高 等 部		合 計
		本 科	専 攻 科	
高等学校 (本科)	全日制			0
	定時制			0
	通信制			0
特別支援学校高等部	14			14
その他高等学校等				0
大学等	大学(学部)			0
	短期大学(本科)			0
	大学・短期大学の通信教育学部等			0
	その他大学等			0
特別支援学校高等部専攻科				0
専修学校(専門課程)				0
専修学校(一般課程)・各種学校				0
公共職業能力開発施設等		1		1
就 職		6		6
上記以外※		21		21
不詳・死亡				0
計 ( 卒 業 者 総 数 )	14	28	0	42

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分	中 学 部	高 等 部		合 計
		本 科	専 攻 科	
児童福祉施設				0
障害者支援施設		20		20
(うち就労系支援事業利用者)		10		10
医療機関				0
計	0	20	0	20

□□□□□□

## 生徒の状況

### 1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年6月30日現在) (単位:人)

〈本校〉

市町名	御殿場市	裾野市	小山町	その他	合計
生徒数	74	52	16	13	155
構成比%	47.7%	33.6%	10.3%	8.4%	100%

〈小山分校〉

市町名	御殿場市	裾野市	小山町	その他	合計
生徒数	18	4	5	0	27
構成比%	66.7%	14.8%	18.5%	0.0%	100%

(2) 通学方法 (令和7年6月30日現在) (単位:人)

〈本校〉

区分	スクールバス	公共交通機関等	自転車	保護者送迎	徒歩	合計
生徒数	74	26	0	47	8	155
構成比%	47.7%	16.8%	0.0%	30.3%	5.2%	100%

〈小山分校〉

区分	スクールバス	公共交通機関等	自転車	保護者送迎	徒歩	合計
生徒数	0	19	5	3	0	27
構成比%	0.0%	70.4%	18.5%	11.1%	0.0%	100%

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年6月30日現在)

〈本校〉

中学部

(単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数	0	0	/	0
男子	1年	0	12	12
	2年	0	10	10
	3年	0	9	9
	計(A)	0	31	31
	構成比	0%	100%	100%
女子	1年	0	4	4
	2年	0	6	6
	3年	0	5	5
	計(B)	0	15	15
	構成比	0%	100%	100%
合計	(A+B)	0	46	46
	構成比	0%	100%	100%

高等部

(単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数	1	0	/	1
男子	1年	2	12	14
	2年	5	3	8
	3年	9	5	14
	計(A)	16	20	36
	構成比	44%	56%	100%
女子	1年	0	4	4
	2年	2	6	8
	3年	1	5	6
	計(B)	3	15	18
	構成比	17%	83%	100%
合計	(A+B)	19	35	54
	構成比	35%	65%	100%

〈小山分校〉

高等部

(単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計	
部(クラブ)数	1	1	/	2	
男子	1年	5	2	7	
	2年	9	2	12	
	3年	/	/	/	
	計(A)	14	4	1	19
	構成比	74%	21%	5%	100%
女子	1年	3	1	6	
	2年	1	1	2	
	3年	/	/	/	
	計(B)	4	2	2	8
	構成比	50%	25%	25%	100%
合計	(A+B)	18	6	3	27
	構成比	67%	22%	11%	100%

3 障害別児童生徒数

(令和7年6月30日現在) (単位:人)

〈本校〉

区分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
小学部	単一障害	4	2	6	2	5	3	22	6
	重複障害	6	4	3	2	7	3	25	8
	肢体重複	2	1	2	2	1	0	8	5
	合計	12	7	11	6	13	6	55	19
中学部	単一障害	10	8	10	/	/	/	28	6
	重複障害	5	7	3	/	/	/	15	4
	肢体重複	1	1	1	/	/	/	3	3
	合計	16	16	14	/	/	/	46	13
高等部	単一障害	14	12	17	/	/	/	43	6
	重複障害	2	2	1	/	/	/	5	3
	肢体重複	2	2	2	/	/	/	6	3
	合計	18	16	20	/	/	/	54	12

〈小山分校〉

区分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
高等部	単一障害	13	14	/	/	/	/	27	4
	重複障害	0	0	/	/	/	/	0	0
	合計	13	14	/	/	/	/	27	4

4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年6月30日現在) (単位:人)

〈本校〉

区分	脳・神経系疾患						染色体異常		自閉傾向	その他	計
	精神遅滞発達	脳性マヒ	てんかん	水頭症	後遺症 脳炎	その他	ダウン症候群	その他			
小学部	3	4	1	0	1	2	9	2	30	3	55
中学部	10	3	1	0	0	2	3	2	25	0	46
高等部	14	3	0	1	0	5	0	5	26	0	54
計	27	10	2	1	1	9	12	9	81	3	155

〈小山分校〉

区分	脳・神経系疾患						染色体異常		自閉傾向	その他	計
	精神遅滞発達	脳性マヒ	てんかん	水頭症	後遺症 脳炎	その他	ダウン症候群	その他			
高等部	17	0	0	0	0	0	0	0	10	0	27
計	17	0	0	0	0	0	0	0	10	0	27

□□□□□□□□

特別支援学校における生産物売払調

令和7年度

(令和7年6月30日現在)

		主な生産品目			
7 年 度	<p>&lt;手芸品・工作物&gt; 本 校：箸袋 小山分校：巾着袋、コードクリップ、ブレスレット</p> <p>&lt;農作物&gt; 本 校：玉ねぎ</p>	① 売払金額	62,800 円	② 前年度との差額	△247,750 円
	<p>&lt;手芸品・工作物&gt; 箸袋、紙バンド製バスケット、ティッシュケース、ヘアピン、キーホルダー、ピアス、ヘアゴム、イヤリング、コースター、トレイ、ペン立て、米カイロ、匂い袋、ペット用フードスタンド、お飾り</p> <p>&lt;農作物&gt; なす、ピーマン、きゅうり、小松菜、大根、里芋、水菜、レタス、さつまいも</p>	① 売払金額	310,550 円	② 前年度との差額	△30,600 円
5 年 度	<p>&lt;手芸品・工作物&gt; 箸袋、紙バンド製バスケット、ティッシュケース、ヘアピン、キーホルダー、ピアス、ヘアゴム、イヤリング、コースター、トレイ、ペン立て、米カイロ、匂い袋、ペット用フードスタンド、お飾り、椅子</p> <p>&lt;農作物&gt; なす、ピーマン、白菜、大根、里芋</p>	① 売払金額	341,150 円	② 前年度との差額	39,850 円

□□□□□□□□

## 預 金 調

(令和7年6月30日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘要
富士伊豆農協 神山支店	無利息型 普通預金	0074189	静岡県立御殿場特別支援学校 資金前渡者 校長 狩野見 知穂子	0	給料及び資金前 渡金の受領
スルガ銀行 御殿場西支店	無利息型 普通預金	2403113	自振口・静岡県立御殿場特別支援学校 資金前渡者 狩野見 知穂子	0	社会保険料、電 話料等の自動振 替
スルガ銀行 御殿場西支店	無利息型 普通預金	2403112	静岡県立御殿場特別支援学校 就学奨励費代理受領者 狩野見 知穂子	0	就学奨励費の代 理受領
残 高 合 計				0	

□□□□□□

## 材 料 品 受 払 調

(令和7年6月30日現在)

区分 品名	令和6年度						令和7年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
紙バンド	0	0	141	111,474	141	111,474	0	0	0	0	0	0	0	0	
布	0	0	48	16,852	48	16,852	0	0	0	0	0	0	0	0	
糸	0	0	15	18,436	15	18,436	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	204	146,762	204	146,762	0	0	0	0	0	0	0	0	

□□□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会 計	款	項	目	執 行 済 額 (円)		
					5年度	6年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		448,800	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		34,740,200	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		20,185,594	
計					56,338,329	55,374,594	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		1,584,000	
計					2,959,000	1,584,000	0
(16) 公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		5,689,200	
計					12,021,031	5,689,200	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		66,500	
計					63,700	66,500	0
(21) 補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

□□□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年6月30日現在)

節 名	会 計	款	項	目	執 行 済 額 (円)	
					うち、6年度からの繰越額分	
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	7,490,010	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	3,274,384	0
計					10,764,394	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	0	0
計					0	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	23,000	0
計					23,000	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0



# 委託料に関する調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
8	グリストラップ・排水管等清掃業務	㈱カンザイ	165,000	148,500		148,500	随契	R6.7.19 R7.3.31	R6.8.26 R7.1.27 R7.4.25 小計	49,500 49,500 49,500 148,500	グリストラップ及び厨房内排水管の清掃業務	随契1号(少額)
9	グリストラップ等に係る産業廃棄物収集・運搬	㈱マツナガ	134,750	134,750		134,750	随契	R6.7.19 R7.3.31	R6.8.26 R7.1.27 R7.4.25 小計	96,250 19,250 19,250 134,750	グリストラップ及び油脂分解装置の汚泥収集運搬業務	随契1号(少額)
10	グリストラップ等に係る産業廃棄物処分	クリーンサービス㈱	96,250	96,250		96,250	随契	R6.7.19 R7.3.31	R6.8.26 R7.1.27 R7.4.25 小計	68,750 13,750 13,750 96,250	グリストラップ及び油脂分解装置の汚泥処分業務	随契1号(少額)
11	産業廃棄物収集・運搬及び処分	富士総業㈱	84,700	84,700		84,700	随契	R6.4.22 R6.7.31	R6.5.27	84,700	産業廃棄物の収集運搬及び処分業務	随契1号(少額)
12	産業廃棄物収集・運搬及び処分	富士総業㈱	84,700	84,700		84,700	随契	R6.9.4 R7.3.31	R7.4.14	84,700	産業廃棄物の収集運搬及び処分業務	随契1号(少額)
13	産業廃棄物収集・運搬及び処分	高森商事㈱ タイヤカット工場	25,080	25,080		25,080	随契	R7.3.5 R7.3.31	R7.4.25	25,080	産業廃棄物の収集運搬及び処分業務	随契1号(少額)
	事務関係計	13件	211,926,225							54,925,794		
1	(工事関係)有害物質含有調査業務	東海プラント分析センター㈱	778,800	478,500	△ 29,700	448,800	随契	R6.10.15 R7.1.31	R6.12.25	448,800	校舎外壁等の有害物質含有調査業務	随契1号(少額)
	工事関係計	1件	778,800							448,800		
	合計	14件	212,705,025							55,374,594		
参考1	(事務関係)警備業務	セコム㈱	円	4,719,000	155,763	4,874,763		R1.10.1 R6.9.30		円	校内機械警備	1 長期御殿場高校
参考2	警備業務	セコム㈱		9,900,000		9,900,000		R6.10.1 R11.9.30			校内機械警備	6 長期御殿場高校
参考3	自家用電気工作物保安管理業務	金指電気管理事務所		760,870		760,870		R6.4.1 R7.3.31			自家用電気工作物の維持保安に関する業務	御殿場南高校
参考4	消防用設備等保守点検業務	伊豆防災機器㈱		4,493,852		4,493,852		R6.4.1 R7.3.31			消防用設備保守点検	御殿場高校
参考5	浄化槽保守点検業務	三友水処理㈱		971,850		971,850		R6.4.1 R7.3.31			浄化槽維持管理	沼津東高校
参考6	可燃物収集運搬処分業務	㈱東海衛生		運搬料 1回あたり 935円 処分料 1kgあたり 8円		運搬料 1回あたり 935円 処分料 1kgあたり 8円		R6.4.5 R7.3.31			可燃物収集運搬処分	単価契約 小山高校
参考7	プール浄化装置保守点検業務	三友水処理㈱		196,680		196,680		R6.4.11 R6.11.30			プール浄化装置保守点検	沼津西高校
参考8	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	㈱コーセイ産業		808,500		808,500		R6.8.20 R6.12.20			建築基準法第12条点検	御殿場南高校
	合計	8件										
参考1	(工事関係)外壁修繕工事他設計業務	㈱梶原建築設計事務所	円	3,520,000	429,000	3,949,000		R6.6.11 R6.10.16		円	校舎外壁修繕他工事設計	沼津土木事務所
	合計	1件										

# 委託料に関する調

(令和7年度)  
(令和7年6月30日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	給食業務	㈱ユアーズ静岡	68,976,877	58,300,000	40,810	58,340,810	一般	R5.8.1 R8.7.31	R7.5.26 R7.6.26	(32,389,280) 1,622,280 1,621,950	給食調理及び配膳業務	5長期
2	通学バス輸送業務	㈱恋路企画	148,314,408	104,776,100	6,145,700	110,921,800	一般	R7.4.1 R10.3.31	R7.5.26 R7.6.26	3,081,155 3,081,155	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎	7長期 落札業者の点呼点検時間の加算忘れにより最下限運賃を下回ったことによる増額変更
3	スクールバス運行管理業務	三陽自動車㈱静岡事業所	19,627,630	15,246,000		15,246,000	一般	R7.4.1 R10.3.31	R7.5.26 R7.6.26	423,500 423,500	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎、県有車両管理	7長期
4	エレベーター保守点検業務	日本オーチス・エレベーター㈱静岡支店	1,650,000	1,650,000		1,650,000	随契	R7.4.1 R8.3.31	R7.5.26 R7.6.26	137,500 137,500	エレベーター保守点検	随契2号(不適)
5	防鼠防虫業務	㈱カンザイ	272,800	264,000		264,000	随契	R7.4.14 R8.3.31			厨房・食堂の防鼠防虫業務	随契1号(少額)
6	給食可燃物収集運搬業務	富士総業㈱	179,664 運搬料 1回あたり1,320円 処分料 1kgあたり 8円	運搬料 1回あたり1,210円 処分料 1kgあたり 8円		運搬料 1回あたり1,210円 処分料 1kgあたり 8円	随契	R7.4.11 R8.3.31	R7.5.26 R7.6.26	12,874 17,280	給食調理に伴い発生する生ゴミの収集処分	随契1号(少額) 単価契約
7	来客・職員用トイレ清掃業務	さんしんハートフル㈱	99,000	99,000		99,000	随契	R7.5.1 R8.3.31	R7.6.26	19,800	来役・職員用トイレの清掃業務	随契1号(少額)
8	産業廃棄物収集・運搬及び処分	富士総業㈱	86,900	86,900		86,900	随契	R7.4.4 R7.7.31	R7.6.26	86,900	産業廃棄物の収集運搬処理業務	随契1号(少額)
9	産業廃棄物収集・運搬及び処分	セキトラシステム㈱	99,000	99,000		99,000	随契	R7.5.1 R7.9.30	R7.6.26	99,000	産業廃棄物の収集運搬処理業務	随契1号(少額)
	事務関係計	9件	239,306,279							10,764,394		
	合計	9件	239,306,279							10,764,394		
参考1	(事務関係) 警備業務	セコム㈱		9,900,000		9,900,000		R6.10.1 R11.9.30			校内機械警備	6長期 御殿場高校
参考2	自家用電気工作物保安管理業務	金指電気管理事務所		765,600		765,600		R7.4.1 R8.3.31			自家用電気工作物の維持保安に関する業務	御殿場南高校
参考3	消防用設備等保守点検業務	伊豆防災機器㈱		4,579,652		4,579,652		R7.4.1 R8.3.31			消防用設備保守点検	御殿場高校
参考4	浄化槽保守点検業務	三友水処理㈱		945,120		945,120		R7.4.1 R8.3.31			浄化槽維持管理	沼津東高校
参考5	可燃物収集運搬処分業務	富士総業㈱		運搬料 1回あたり1,210円 処分料 1kgあたり 8円		運搬料 1回あたり1,210円 処分料 1kgあたり 8円		R7.4.4 R8.3.31			可燃物収集運搬処分	単価契約 小山高校
参考6	プール浄化装置保守点検業務	三友水処理㈱		183,700		183,700		R7.4.11 R7.11.28			プール浄化装置保守点検	沼津西高校
	合計	6件										

□□□□□

## 負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	甲種防火管理新規講習講習料	一般財団法人 日本防火・防災協会	講習会案内による	防火管理者資格を取得する	円 8,000	R6.4.26
2	安全運転管理協会費	御殿場地区安全 運転管理協会	会則による	安全運転管理者の資質の向上及び交通安全の実現に寄与する	23,000	R6.5.7
3	全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会	全国特別支援学校知的障害教育校長会会則	特別支援教育ならびに知的障害教育の振興を図る	15,000	R6.7.12
4	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会参加費	全国特別支援学校知的障害教育校長会	開催要項による	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会参加費	3,000	R6.7.18
5	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会規約	特別支援学校知的障害教育の振興並びに会員の研修と互助を図る	5,000	R6.7.26
6	安全運転管理者講習受講手数料	一般社団法人 静岡県安全運転管理協会	道路交通法第112条第1項第12号	道路交通法第108条の2第1項第1号に掲げる講習	4,500	R6.8.6
7	甲種防火管理新規講習講習料	一般財団法人 日本防火・防災協会	講習会案内による	防火管理者資格を取得する	8,000	R6.8.16
計		7件			66,500	

□□□□□

## 負担金支出調

(令和7年度)

(令和7年6月30日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	安全運転管理協会費	御殿場地区安全 運転管理協会	会則による	安全運転管理者の資質の向上及び交通安全の実現に寄与する	円 23,000	R7.4.25
計		1件			23,000	

□□□□□□

建 築 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
1	教育管理費	令和6年度静岡県立御殿場特別支援学校管理棟厨房用排風機更新工事	御殿場市 神山地内	1,694,000	1,584,000	0
		合計	1件	1,694,000	1,584,000	0

□□□□□□□□

建 築 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
1	教育管理費	令和7年度静岡県立御殿場特別支援学校高圧ケーブル更新工事	御殿場市 神山地内	1,738,000	1,738,000	0
		合計	1件	1,738,000	1,738,000	0

事 調

(令和6年度)

額	契約締結方法	受注者	着 手 完 成 (予 定) 年月日	支出済額	工事概要	公有 財産 台帳	摘 要
計							
1,584,000	随契	(株)フジモト	R6.7.12 R6.11.1	1,584,000	厨房換気用排風機の更新	—	令達 R6.6.11 最終支払年月日 R6.12.16 随契1号(少額)
1,584,000				1,584,000			

事 調

(令和7年度)

(令和7年6月30日現在)

額	契約締結方法	受注者	着 手 完 成 (予 定) 年月日	支出済額	工事概要	公有 財産 台帳	摘 要
計							
1,738,000	随契	(株)岡電	R7.6.19 R7.2.27	0	気中開閉器からキュービクルまでの高圧ケーブル更新	—	令達 R7.6.3 随契1号(少額)
1,738,000				0			

□□□□□□

## 公 有 財 産 調

(令和6年度)

区 分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 1,167,610	/	千円 0	/	千円 44,037	/	千円 1,123,573	
土 地	m <sup>2</sup> 18,000.05	314,538					m <sup>2</sup> 18,000.05	314,538	
立木竹	本 83	2,575					本 83	2,575	
建 物	m <sup>2</sup> <u>4,407.63</u> 6,558.46	687,197				34,901	m <sup>2</sup> <u>4,407.63</u> 6,558.46	652,296	
工作物	個 69	163,300				9,136	個 69	154,164	
公有財産 に準ずる もの	/	261	/	0	/	0	/	261	
電 話 加入権	本 4	261					本 4	261	

令和7年度中増減なし

□□□□□□

### 借地借家等調

(令和7年6月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	御殿場市神山1925-1641	雑種地	雑種地	m <sup>2</sup> 0.25	円 0	円 0	R7.4.1 ) R8.3.31	個人	本校案内看板設置場所
2	工作物	雑工作物	御殿場市神山1553-3	外灯用器具 鋼管ポール	外灯用器具 鋼管ポール	基 4	円 0	円 0	R7.4.1 ) R8.3.31	静岡県立御殿場特別支援学校PTA	本校防犯用
3	工作物	雑工作物	御殿場市神山1553-3	アルミ製 パーゴラ	アルミ製 パーゴラ	基 1	円 0	円 0	R7.4.1 ) R8.3.31	静岡県立御殿場特別支援学校PTA	本校校内緑化用
4	建物	事務所建	駿東郡小山町竹之下369	建物	校舎	m <sup>2</sup> 621.08	円 0	円 0	R6.4.1 ) R9.3.31	静岡県立小山高等学校	小山分校占有教室
5	土地	敷地	駿東郡小山町竹之下369	学校敷地	学校敷地	m <sup>2</sup> 19.48	円 0	円 0	R6.4.1 ) R9.3.31	静岡県立小山高等学校	小山分校用倉庫・非常用自家発電設備設置用
	計							円 0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)  
(令和7年6月30日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)								
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	
			円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
長期継続契約	電子複写機賃貸借契約	モノクロ1台 (契約日) 令和3年4月1日	486,246	105,320	80,049	98,877	101,000	101,000				
長期継続契約	通学バス輸送業務	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎 (契約日) 令和4年4月1日	86,022,665		30,154,985	27,932,520	27,935,160					
長期継続契約	スクールバス運行管理業務	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎 県有車両管理 (契約日) 令和4年4月1日	14,883,000		4,960,560	4,960,560	4,961,880					
長期継続契約	給食業務	給食調理・配膳業務1式 (契約日) 令和5年7月31日	58,340,810			12,956,240	19,433,040	19,463,730	6,487,800			
長期継続契約	電子複写機賃貸借契約	カラー1台 モノクロ2台 (契約日) 令和6年4月1日	4,396,920				879,384	879,384	879,384	879,384	879,384	879,384
長期継続契約	通学バス輸送業務	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎 (契約日) 令和7年4月1日	110,921,800					36,973,860	36,973,860	36,974,080		
長期継続契約	スクールバス運行管理業務	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎 県有車両管理 (契約日) 令和7年4月1日	15,246,000					5,082,000	5,082,000	5,082,000		

□□□□□□

### 行政財産貸付・使用許可調

(令和7年6月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量 又は 面積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許可 目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	御殿場市 神山1553-3	学校 敷地	学校 敷地	m <sup>2</sup> 0.56	円 免除	円 免除	02. 4. 1 ～ 07. 3. 31	御殿場特別支援学校 PTA会長	防犯用 外灯設置
2	土地	敷地	御殿場市 神山1553-3	学校 敷地	学校 敷地	m <sup>2</sup> 12.44	円 免除	円 免除	02. 4. 1 ～ 07. 3. 31	御殿場特別支援学校 PTA会長	緑化用 パーゴラ 設置
3	土地	敷地	御殿場市 神山1553-3	学校 敷地	学校 敷地	m <sup>2</sup> 0.08	円 免除	円 免除	07. 4. 1 ～ 12. 3. 31	御殿場市長	地域防災 無線設置
	建物	事務所建		建物	校舎						
合計							円 0				

□□□□□□□□

## 主 要 備 品 調

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利 用 状 況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機 AIHO WTR1-2NG	毎日(年間194日) 給食食器洗浄用	令和 6・12	円 3,619,000
2	01-13	加熱器具	加熱器具 コメントカウ CSV-G20	毎日(年間194日) 給食調理用	平成 23. 3	3,563,175
3	09-01	展示品	日本絵画「生きる」 湯山 東氏作	生徒昇降口に展示	平成 12. 4	3,500,000
4	01-13	その他の厨房器具	その他の厨房器具 真空冷却機CMJ-2	毎日(年間194日) 給食調理用	平成 20. 8	2,572,500
5	06-06	炉	電気陶芸窯 新日本造形 CK-2	月1回(年間12日) 授業用	平成 23. 3	1,592,850
6	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ (タブレットPC一式) iPad	週2回(年間80日) 授業用	平成 27. 3	1,500,228
7	01-13	ユニットキッチン	器具洗浄シンク 中松 ステンレス特注品	毎日(年間194日) 給食調理用	平成 12. 3	1,496,000
8	01-13	ユニットキッチン	野菜用三槽シンク 中松 ステンレス特注品	毎日(年間194日) 給食調理用	平成 12. 3	1,278,000
9	02-02	その他の情報伝達機器	電子情報ボード	故障中(処分検討中) 教材提示用	平成 19. 8	1,270,500
10	06-09	木工用機械	自動カンナ盤 常磐工業 AD-401	週1回(年間40日) 作業学習(木工)用	平成 12. 3	1,137,000
11	01-13	その他の厨房器具	電気湿温蔵庫 ニチワIHS-1275AG	毎日(年間194日) 給食保温保管用	平成 23. 3	1,134,000
12	10-07	鍵盤楽器	鍵盤楽器 電子ピアノ DGP-2XG	週2回(年間80日) 授業用	平成 20. 12	981,750
13	01-13	食品食器洗浄機	食品食器洗浄機 ドアタイプSD82GB-LB	毎日(年間194日) 給食食器洗浄用	令和 2. 8	979,000
14	01-04	移動書庫	移動書庫 ナイキCW-0921K(ほか)	毎日(年間365日) 小山分校職員室	令和 6. 3	946,000
15	01-19	掲示板・黒板	掲示板 ソフトフレーム 20m×1.2m	毎日(年間365日) 掲示用	平成 21. 3	874,650
16	01-07	裁断機	電動裁断機 HORIZON PC-450	月1回(年間12日) 小山分校作業室	令和 6. 2	864,600
17	02-01	パーソナルコンピュータ周辺機器	タブレット端末一式 EB-536WT、PR-9、ACERA1010	毎日(年間201日) 授業用	平成 29. 7	808,380
18	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX-1A	週3回(年間120日) 授業用(集会室)	平成 12. 3	802,200
19	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX-1A	週2回(年間80日) 音楽授業用(音楽室)	平成 12. 3	802,200
20	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハ C3	月2回(年間24日) 式典・行事用	平成 16. 12	785,000

## 職 員 調

〈 本 校 〉

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校長	狩野見 知穂子	総括	□□□□	□.□	□□□□□
2	副校長	川上 健治	総括補助	□□□□	□.□	□□□□□
3	教頭	大畑 智里	総括補助	□□□□	□.□	□□□□□
4	事務長	今林 美穂子	事務総括	□□□□	□.□	□□□□□
5	教諭	小林 由美	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
6	教諭	田口 誠	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
7	教諭	庄司 達夫	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
8	教諭	松山 幸尚	高学部	□□□□	□.□	□□□□□
9	教諭	秋山 登志夫	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
10	教諭	前田 慶二	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
11	教諭	青島 英之	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
12	教諭	山川 裕子	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
13	教諭	保科 雄二	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
14	教諭	高田 晶子	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
15	教諭	長田 千鶴	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
16	教諭	勝又 飛鳥	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
17	教諭	鈴木 秀宜	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
18	教諭	小畑 栄子	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
19	教諭	鈴木 真紀子	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
20	教諭	石澤 越代	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
21	教諭	松浦 賢次	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
22	教諭	植松 亜矢子	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
23	教諭	渡邊 美聖	小学部主事	□□□□	□.□	□□□□□
24	教諭	加藤 真弓	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
25	教諭	宮城 美歩	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
26	教諭	小花 友梨	中学部主事	□□□□	□.□	□□□□□
27	教諭	宮澤 晃尚	高等部主事	□□□□	□.□	□□□□□
28	教諭	渡邊 奈緒美	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
29	教諭	小宮山 文乃	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
30	教諭	梶井 聖子	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
31	教諭	坂本 宣子	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
32	教諭	三澤 有希	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
33	教諭	清水 真由美	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
34	教諭	佐藤 晃平	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
35	教諭	杉山 早耶香	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
36	教諭	大村 直子	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
37	教諭	上村 智子	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
38	教諭	江川 絢子	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
39	教諭	東 亮宏	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
40	教諭	稲葉 良太	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
41	教諭	長島 翔	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
42	教諭	高田 真央	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
43	教諭	橋本 亜希子	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
44	教諭	瀬戸 浩祥	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
45	教諭	佐藤 信彦	高等部	□□□□	□.□	□□□□□

46	教諭	小林 俊介	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
47	教諭	清 裕一	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
48	教諭	船越 絵理	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
49	教諭	望月 透	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
50	教諭	小林 傑	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
51	教諭	田中 健太	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
52	教諭	柏木 智希	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
53	教諭	吉村 美穂	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
54	教諭	白川 香純	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
55	教諭	鈴木 曜子	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
56	教諭	熊王 瑞華	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
57	教諭	杉本 貴志	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
58	教諭	井上 莉菜	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
59	教諭	小松 孝英	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
60	教諭	長橋 加奈	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
61	教諭	古根村 愛里	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
62	教諭	石井 涼	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
63	教諭	鶴田 尚平	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
64	教諭	齋藤 奈那美	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
65	教諭	新里 理徳	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
66	教諭	山梨 慎也	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
67	教諭	松田 信一	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
68	教諭	福井 のぞみ	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
69	教諭	時田 奈々	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
70	教諭	鈴木 直也	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
71	教諭	塩川 敬大	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
72	教諭	田中 洋平	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
73	教諭	石田 万智子	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
74	教諭	清水 愛	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
75	教諭	渡邊 彩乃	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
76	教諭	小早川 拓巳	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
77	教諭	加藤 裕暉	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
78	教諭	武藤 誉敬	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
79	教諭	松尾 佳音	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
80	教諭	金子 実花	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
81	教諭	鈴木 ひかる	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
82	教諭	神谷 青葉	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
83	教諭	杉浦 奏音	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
84	養護教諭	山本 美羽	養護	□□□□	□.□	□□□□□
85	栄養教諭	杉本 香織	給食	□□□□	□.□	□□□□□
86	主査	大塚 紀美	会計	□□□□	□.□	□□□□□
87	主査	米山 裕子	管財	□□□□	□.□	□□□□□
88	主任	植松 菜実	会計	□□□□	□.□	□□□□□
89	主事	増田 和歌子	給与	□□□□	□.□	□□□□□
				平均年数	□.□	

□□□□□□

## 職 員 調 (臨時・会計年度任用職員)

〈 本 校 〉

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教諭(任)	西島 百子	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
2	教諭(任)	芹澤 京子	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
3	養護教諭(任)	杉本 祐希	養護	□□□□	□.□	□□□□□
4	教諭(臨)	田中 久美子	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
5	教諭(臨)	池田 ルミ子	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
6	教諭(臨)	杉崎 真由美	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
7	教諭(臨)	加藤 優佳	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
8	教諭(臨)	乗末 達也	中学部	□□□□	□.□	□□□□□
9	教諭(臨)	清水 翔平	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
10	教諭(臨)	辻村 寛菜	小学部	□□□□	□.□	□□□□□
11	教諭(臨)	平岩 花奈子	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
12	医療的ケア看護職員	佐野 美智子	医療的ケア	□□□□	□.□	□□□□□
13	医療的ケア看護職員	坂田 めぐみ	医療的ケア	□□□□	□.□	□□□□□
14	非常勤労務職員	根上 明美	スクールバス添乗	□□□□	□.□	
15	非常勤労務職員	長田 美香	スクールバス添乗	□□□□	□.□	
16	非常勤労務職員	松岡 由香里	スクールバス添乗	□□□□	□.□	
17	非常勤労務職員	岩田 たえ	スクールバス添乗	□□□□	□.□	
18	非常勤労務職員	高堰 智子	スクールバス添乗	□□□□	□.□	
19	非常勤労務職員	池田 真由美	用務員	□□□□	□.□	
20	非常勤労務職員	関屋 忠史	技能員	□□□□	□.□	
21	非常勤嘱託員	鈴木 巧	事務員	□□□□	□.□	
22	非常勤嘱託員	島村 哲郎	指導員	□□□□	□.□	
23	非常勤嘱託員	戸谷 彩月	実習支援員	□□□□	□.□	
24	非常勤嘱託員	岩本 憲大	実習支援員	□□□□	□.□	
25	スクールカウンセラー	後藤 めぐみ	相談員	□□□□	□.□	□□□□□
26	就労促進専門員	大谷 康雄	相談員	□□□□	□.□	
27	学校医	田内 守之	内科	□□□□	□.□	□□□□□
28	学校医	石川 昭	眼科	□□□□	□.□	
29	学校医	齋藤 彰治	耳鼻科	□□□□	□.□	
30	学校医	渡辺 幸雄	整形外科	□□□□	□.□	
31	学校医	吉津 和憲	歯科	□□□□	□.□	
32	薬剤師	長田 進	薬剤師	□□□□	□.□	

□□□□□□

## 職 員 調

〈 小山分校 〉

(令和7年6月30日現在)

整理番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	副校長	山本 健児	総括	□□□□	□.□	□□□□□
2	教諭	安藤 桂子	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
3	教諭	杉山 和子	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
4	教諭	遠藤 道子	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
5	教諭	勝間田 ひな子	高等部主事	□□□□	□.□	□□□□□
6	教諭	松浦 隆介	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
7	教諭	大村 孝行	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
8	教諭	岩田 大悟	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
9	教諭	後藤 有香	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
10	教諭	柚岡 瞬	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
11	教諭	松代 紗季	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
12	養護教諭	永野 帆南	養護	□□□□	□.□	□□□□□
				平均年数	□.□	

□□□□□□

## 職 員 調 (臨時・会計年度任用職員)

〈 小山分校 〉

(令和7年6月30日現在)

整理番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教諭(臨)	新堀 祐生	高等部	□□□□	□.□	□□□□□
2	非常勤労務職員	竹内 梨沙	用務員	□□□□	□.□	
3	学校医	田内 守之	内科	□□□□	□.□	□□□□□
4	学校医	石川 昭	眼科	□□□□	□.□	
5	学校医	齋藤 彰治	耳鼻科	□□□□	□.□	
6	学校医	小野 義晃	歯科	□□□□	□.□	
7	薬剤師	杉山 博昭	薬剤師	□□□□	□.□	

□□□□□□

### 職員の年齢調

(令和7年6月30日現在)

年 齢	人 員		摘 要
	本 校	小山分校	
20歳未満	0人	0人	
20歳以上30歳未満	11	1	
30歳以上40歳未満	43	3	
40歳以上50歳未満	16	3	
50歳以上56歳未満	11	3	
56歳以上61歳未満	6	2	
61歳以上	2	0	本校：再任用2人
計	89	12	

平均年齢            40.5歳            44.5歳

□□□□□□□□

## 健 康 管 理

### 1 令和6年度受診状況

区 分	内 容		
	本 校	分 校	
受 診 状 況	受診者数	91人	8 人
	職員数	92人	8 人
受 診 率	100%	100%	
県平均受診率	100%	100%	

未受診の理由

育児休業 1人

### 2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分			人数(人)	
			本校	小山分校
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0	0
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	0	0
B 2		要経過観察	0	0
C 1	勤務をほぼ平常に行っておりが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	0	0
C 2		要経過観察	0	0
D 1	平常の勤務でよい。	要治療	7 (7)	2 (2)
D 2		要経過観察	12 (12)	3 (3)
D 3		医療不要	65 (65)	7 (7)
区 分 者 計			84 (84)	12 (12)
未 区 分 者 数			5 (5)	0 (0)
合 計			89 (89)	12 (12)

(1) 管理区分A～C  
2該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 1人

イ 新規採用 4人

ウ 自己都合による未受診 人

エ その他 人